

第5編 上原IV遺跡IV

第1章 既往の調査

これまで上原IV遺跡では、町教委、事業団によって6回の発掘調査が実施されている。町教委が4回（第221図1～4、第29表）、事業団が2回（同図A・B、同表）である。今回の発掘調査は、町教委が実施した第4次調査の林地区土地改良事業に伴い実施した試掘調査を受けての本調査である。

町教委は平成15年度から発掘調査を行なっている。第1～3次調査は個人住宅建設に伴い実施した試掘調査である。第1・2次調査では遺構・遺物は確認されなかった。第2次調査地点では地山がローム層ではなく、白黄色礫層であった。第3次調査では、遺構は確認されなかったが、縄文時代中期後半・縄文時代晩期末・平安時代の遺物包含層が確認された。第4次調査では、縄文時代晩期（～弥生時代か）の遺物包含層が確認された。

事業団は平成15年度と21年度にハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施している。平成15年度は林地区内町道拡幅工事に際して実施され、一部調査区が今回の発掘調査区と隣接する（A地点）。縄文時代後期（堀之内2式～加曾利B2式）の竪穴（敷石）住居跡、列石・配石・集石遺構、焼土遺構、中世～近世にかけての溝跡・旧河道などが確認されている。また、縄文時代晩期末～弥生時代、6世紀前半代、9世紀第2四半期・前半および10世紀代の遺物がやまとまって出土している。平成21年度は県道林野原線建設工事に際して実施され、一部調査区が今回の発掘調査区と隣接する（B地点）。中世～近世と考えられる土坑、縄文時代中期・後期の遺物包含層（堀之内1式主体）、自然流路が確認されている。

第2章 調査の経過

上原IV遺跡IVの発掘調査は、試掘調査が行われていない狭小部分（1区・2区）のトレーニング調査を平成24年4月17日から開始した。同年4月20日に1区・2区のトレーニング調査が終了し、上原IV遺跡の発掘調査は一旦中断となった。

上原I遺跡IIの発掘調査が終わりに近付いた9月21日、3区・4区の発掘調査が開始された。9月21日、抜根・表土（耕作土とそれ以下の土）掘削作業を開始する。9月24日、3区の確認面までの掘り下げ作業、旧河道路の掘り下げを開始する。9月28日、3区の確認面までの掘り下げ終了。1号竪穴住居跡、流路跡の遺構精査を開始する。

10月3日、2号竪穴住居跡の遺構精査を開始する。10月9日、3号竪穴住居跡・土坑の遺構精査を開始する。10月16日、3区の空中写真撮影を実施。竪穴住居跡の掘り方調査を開始する。10月18日、3区の埋戻しを開始する。10月22日、3区の埋戻し終了。10月24日、4区の確認面までの掘り下げを開始する。10月29日、4区の確認面までの掘り下げ終了、遺構精査を開始する。

11月1日、南壁際でトレーニング掘削を行う。11月6日、5号竪穴住居跡の遺構精査を開始する。11月7・8日、地元住民を対象とした現地説明会を開催した。11月15日、4区の空中写真撮影を実施。竪穴住居跡の掘り方調査を開始する。11月19日、4区南西隅部の遺物包含層上部の重機による掘削を行う。11月20日、遺物包含層の遺構精査を開始する。11月29日、遺物包含層の遺構精査が終了。11月30日、発掘調査道具片付け、撤収作業を行い、発掘調査が終了した。

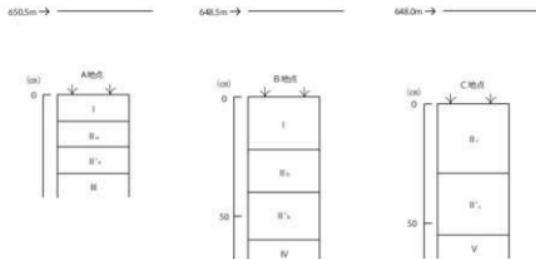
第3章 基本層序

今回の発掘調査の基本層序は、第223・226・227図のA～C地点の3か所で確認した。A地点は3・4区調査区東部の北側、B地点は3・4区調査区東部の南側、C地点は3・4区調査区南西隅部の土層である。全部で五層あり、細分される層もある。

第1層 黒褐色土



第221図 調査区位置図 (1/2,500)



第222図 基本土層柱状図(1/20)

第29表 上原IV遺跡調査一覧（文献番号は巻末の参考文献参照）

番号	調査年度	調査機関	調査面積 (開発面積)	概要	備考
1	平成14年度	長野原町教育委員会	34m ² (868.3m ²)	遺構なし	文献8
2	平成20年度	〃	117m ² (117m ²)	遺構なし 地山白黄土層	文献16
3	〃	〃	18m ² (323m ²)	(構文)中期後半・晚期未包含層 (平安)包含層・中近世陶器	文献16
4	平成18年度	〃	172m ² (1978m ²)	(構文)晚期～(房生)包含層	文献14
4	平成24年度	〃	3106m ² (3486m ²)	(構文)後期窓穴住跡跡1・後期～地山包含層 (古墳)後期窓穴住跡跡2(平安)窓穴住跡跡4	本報告
	平成15年度	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	890m ² (~n)	(構文)後期窓跡・列石遺構・配石遺構 (房生)包含層(古墳)包含層(平安)包含層 (中近世)溝	文献57
B	平成21年度	〃	1826m ² (~n)	(構文)前期～後期的墓包含層 (中近世)土坑(墓も含まれるか)	文献76

表土である。粘性・しまりはともに弱い。礫($\phi 3\text{ cm}$)やや多量、炭化粒($\phi 3\text{ mm}$)微量含む。試掘調査28トレンチ1層に相当する(長野原町教育委員会2008、以下同じ)。

第II_a層 黒褐色土

粘性はなく、しまりはある。礫($\phi 1\text{ cm}$)・暗褐色砂粒多量含む。試掘調査28トレンチの2層を細分したものである。

第II_b層 黒色土

ややシルトっぽい土である。粘性・しまりともにある。黄褐色砂ブロック($\phi 5\text{ mm}$)・炭化粒($\phi 5\text{ mm}$)・白色粒($\phi 3\text{ mm}$)微量含む。試掘調査28トレンチの2層を細分したものである。

第II_c層 黑褐色土

粘性は弱く、しまりはある。礫($\phi 5\text{ cm}$)少量、炭化粒($\phi 1\text{ cm}$)・白色粒微量含む。平成15年度事業団調査のII層を細分したものである((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008、以下同じ)。

第II_d層 黒褐色土

粘性は弱く、しまりはある。ロームブロック($\phi 5\text{ mm}$)・黄褐色砂・炭化粒($\phi 5\text{ mm}$)・焼土粒・白色粒微量含む。試掘調査28トレンチの2層を細分したものである。

第II_e層 黒色土

ややシルトっぽい土である。粘性はややあり、しまりはある。ロームブロック($\phi 5\text{ mm}$)・ローム粒・黄褐色砂・炭化粒($\phi 5\text{ mm}$)・焼土粒・礫(人頭大)微量含む。試掘調査28トレンチの2層を細分したものである。

第II_f層 暗褐色砂質土

粘性はなく、しまりはある。黄褐色土ブロック($\phi 5\text{ mm}$)・白色粒($\phi 1\text{ cm}$)・礫($\phi 3\text{ cm}$)微量含む。平成

第223図 調査区全体図(1/600)



15年度事業団調査のⅡ層を細分したものである。

第Ⅱ_a・Ⅱ_b、Ⅱ_a'・Ⅱ_b'層は、同じ平坦部の東側に位置する上原Ⅰ遺跡ⅡのⅡ_a、Ⅱ_a'層と対応するものと考えられる。上面が調査区北側の遺構確認面である。

第Ⅲ層 黄褐色土

粘性は弱く、しまりはある。礫（拳大・φ 5cm）多量、礫（人頭大）微量含む。王城山側から流れて堆積した土砂と考えられる。

第Ⅳ層 暗褐色土

粘性は弱く、しまりはある。礫（拳大）少量、白色粒・礫（人頭大）微量含む。上面が古墳・平安時代の遺構確認面である。

第Ⅴ層 暗褐色土

粘性はなく、しまりはある。礫（拳大）多量、黄褐色土粒・白色粒・礫（人頭大）微量含む。平成15年度事業団調査のⅢ層に相当する。

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

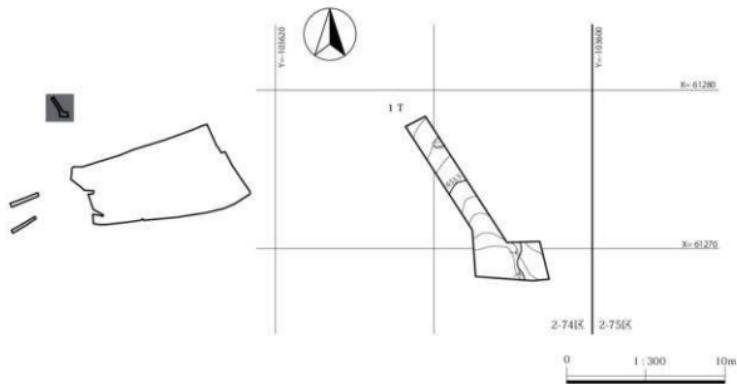
上原Ⅳ遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字林字上原に所在する縄文時代後期の集落跡、平安時代の集落跡を主体とする複合遺跡である。吾妻川左岸の最上位段丘面上に立地しており、最上位段丘面の中央やや西寄りに位置している。遺跡範囲の西側は押手沢が南流し、西端部は王城山の山裾に接する。北側は上原Ⅱ・Ⅲ遺跡がある平坦面張り出し部へと続く。東側・南側は平坦部が続いており、それぞれ上原Ⅰ遺跡・林中原Ⅰ遺跡と接する。

今回の発掘調査は上原Ⅳ遺跡の第4次調査にあたり、調査範囲は大字林字上原 1114-1 外 9 筆に所在する。発掘調査区は1区、2区、3・4区の3か所に分かれている。1区、2区調査区は平成18年度の試掘調査が行われていない場所で、遺構の有無が不確定な場所であった。発掘調査対象面積が狭いこともあり、発掘調査を行なうにあたって、まずトレンチ掘削を行い、遺構が確認されれば全面で発掘調査を行なうことになった。そのため先行して4月に発掘調査を実施した。

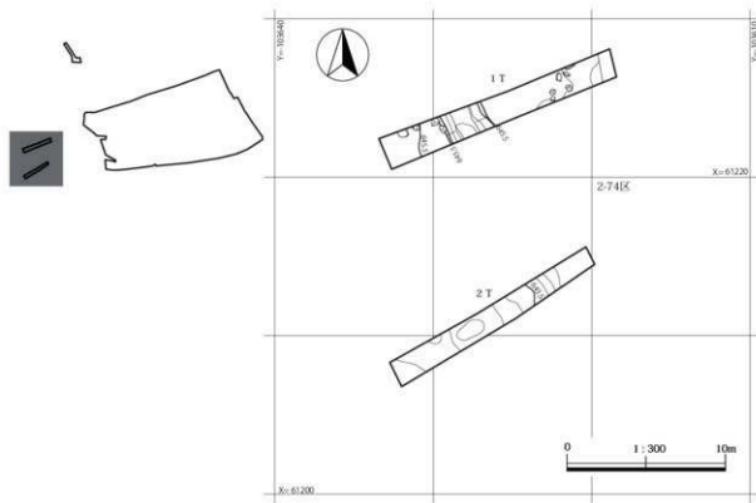
1区調査区は、町道林長野原線の北側に隣接する。15cm弱の水田耕作土の下に約30～70cmの厚さで水田造成のための盛土層、その下から80cm大の岩、人頭大・拳大の礫を多量に含む砂礫層・砂層が堆積していた。トレンチ南端部では関東ローム層と考えられる黄褐色土が検出され、西側へ傾斜している状況が確認された。トレンチを東側に拡張し、黄褐色土上面の精査を実施したが遺構は確認されなかった。以上のことから、本調査区は押手沢の旧流路内にあたり、遺構はない判断した。

2区調査区は、拡幅された町道および押手沢の西側に位置する。調査範囲北側と南側に1本ずつトレンチを設定した。両トレンチとともに30cm弱の畑耕作土の下に80cm大の岩や人頭大の礫を含む砂礫層が堆積していた。砂礫層の厚さが50cm以上あること、西側に向かって傾斜している状況が確認されたことから、本調査区も押手沢の旧流路内にあたり、遺構はない判断した。

3・4区は排土置き場の都合で反転して調査を行なったため調査段階では2つの調査区としたが、本報告では1つの調査区とする。3・4区調査区は、町道林長野原線の南側、拡幅された町道の東側に位置し、事業団の平成15年度の発掘調査区（第221図A）、平成21年度の発掘調査区（第221図B）の一部と隣接する。調査区の北半分は、現表土の下10～30cmから直径1m以上の大岩や人頭大～1m大の礫、多量の礫を含む黄褐色砂質土が確認された。これは北側の山が崩れ流れて来たものと考えられる。南半分は黄褐色砂質土の上に暗褐色土が堆積しており、その土を掘り込んで縄文時代後期以降の住居などが造られていることが確認された。発掘調査地点の現況は、畑地・水田である。遺跡範囲の中央部西側にあたり、南方向に向かって緩やかに

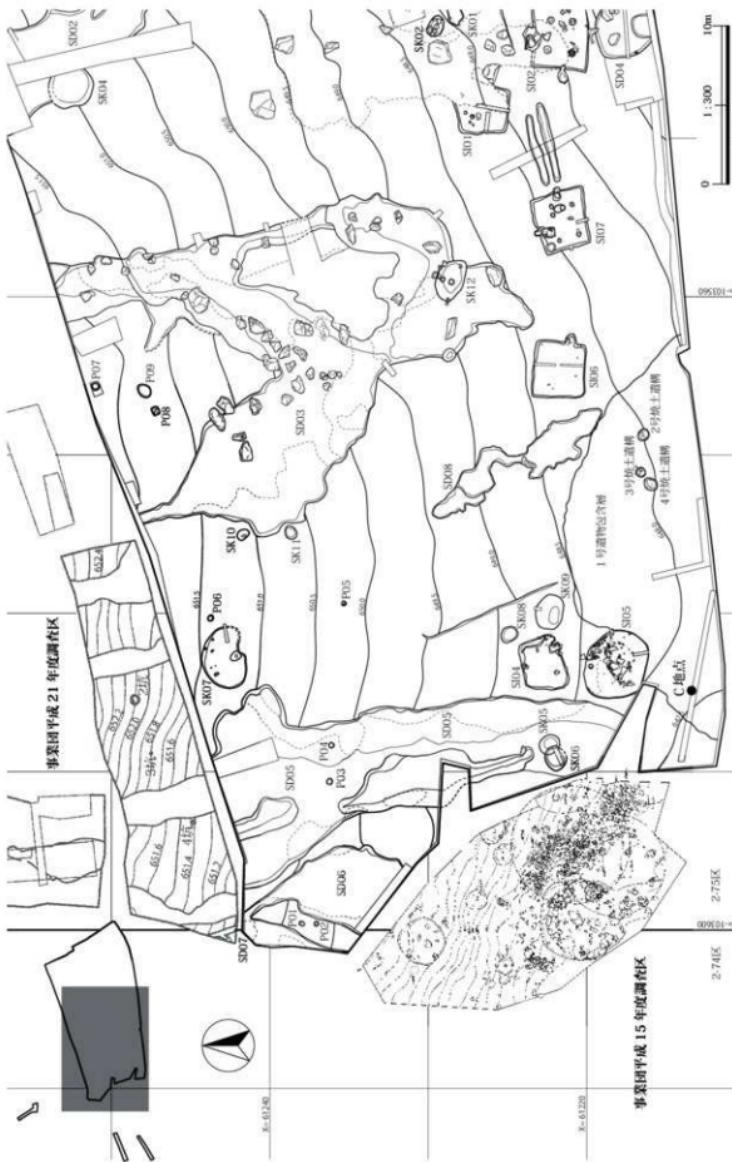


第224図 1区調査区分割図(1/300)



第225図 2区調査区分割図(1/300)

第226图 3·4区调查区分划图①(1/300)





第222图 3-4区调查区分制图②(1/300)

低くなる緩斜面地で、標高は 644.5 m ~ 652.2 m である。

今回の発掘調査で確認された遺構は、縄文時代中期～後期の土坑 5 基、後期の竪穴住居跡 1 軒、後期～晩期の遺物包含層 1 か所、古墳時代後期の竪穴住居跡 1 軒、平安時代の竪穴住居跡 4 軒、時期不明の焼土遺構 4 基、土坑 7 基、ピット 9 基、旧河道 1 条、自然流路 8 条である。

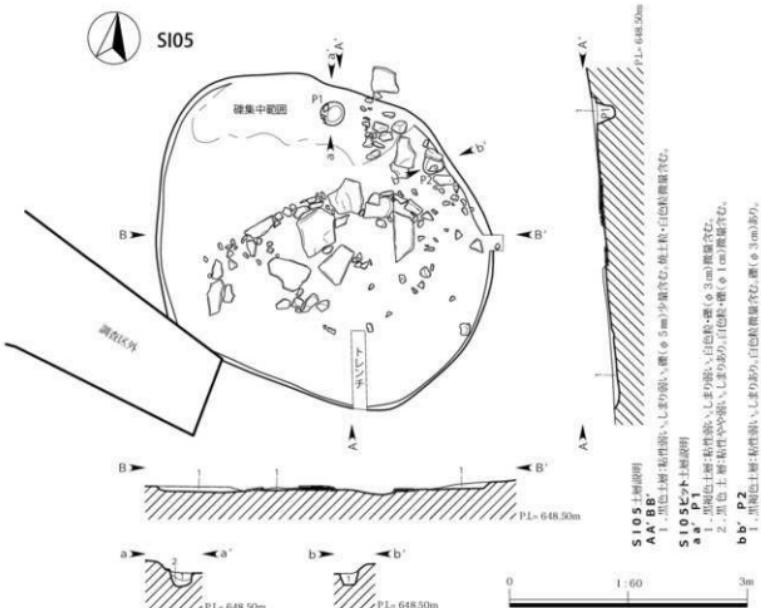
出土した遺物の種類は、縄文土器、土師器、須恵器、中近世陶磁器、石器、石製品、中世錢貨で、その数量はテンバコ 8 箱分であった。

第 2 節 縄文時代の遺構と遺物

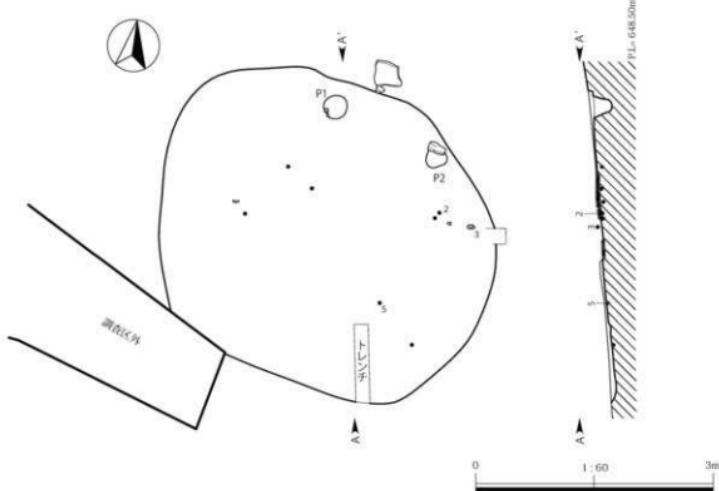
(1) 竪穴住居跡

SI05 (第 228 ~ 230 図 / P L 99・100・107)

位置 2-75 区 D-17 グリッド (3・4 区調査区南西隅部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 北壁は礫集中範囲により不明確である。上部は削平され壁全体の残りが悪い。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。主軸は 4.21 m、副軸は 4.05 m、確認面からの深さは最深 15 cm、床面積は 13.05 m² 以上を測る。 **主軸方位** N-82°-E **壁・壁溝** 壁高は東・西・南壁が 3 cm を測り、外傾して立ち上がるようである。壁溝は確認されていない。 **床面** 敷石が施されており、中心部から西側にかけて一部残存する。敷石は中心部に長さ 45 ~ 55 cm、幅 36 ~ 53 cm の正方形に近い物、周縁部に長さ 39 ~ 65 cm、幅 16 ~ 25 cm の細長い扁平な板状石が敷かれている。板状石の隙間を埋めていたと考えられる小砾



第 228 図 SI05 実測図 (1/60)



第229図 SI05遺物出土状況図(1/60)



第230図 SI05出土遺物実測図(1/3)

が遺存していることから、もっと広範囲に板状石が敷かれていたと考えられる。床面は南に向かって緩やかに傾斜している。柱穴 P1・P2を検出した。壁際に位置することから、壁柱穴の可能性が考えられる。それぞれの規模については第30表に記載する。

炉跡 炉は認められなかった。

他の施設 特に明記すべき施設は見あたらなかった。

遺物検出状況 繩文土器が少量、散らばって出土している。

遺物 出土遺物のうち、縩文土器6点を図示した。本遺構は、上部の遺存状態が悪いため不確実であるが、板状石を敷設した直径約4.2mの円形を呈する竪穴住居跡と判断した。帰属時期は、住居跡の形態および出土遺物から縩文時代後期（堀之内式期）と考えられる。

第30表 SI05 ピット計測表

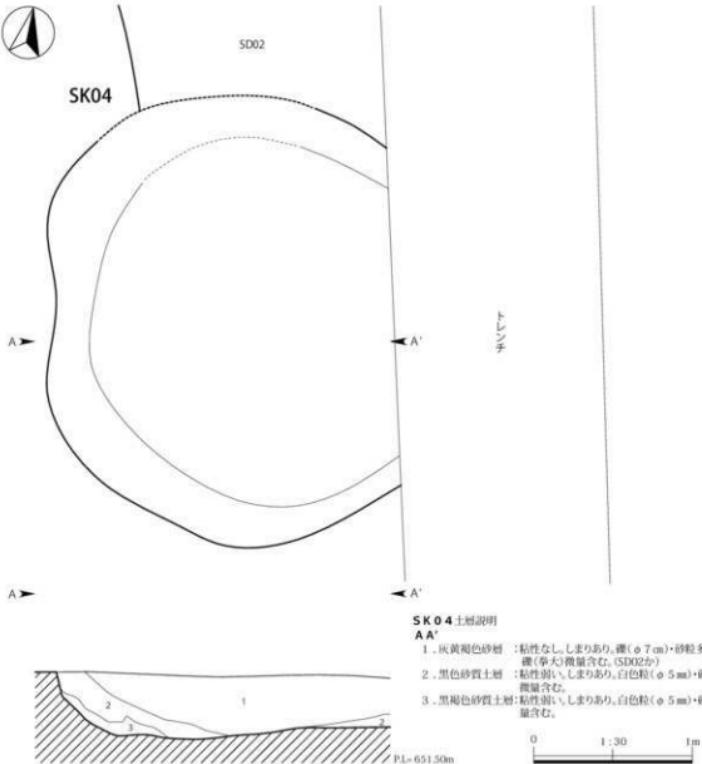
	P 1	P 2
長軸長 (cm)	30	27
短軸長 (cm)	29	(16)
深さ (cm)	22	26

(2) 土坑

SK04(第231・235図／PL 100・107)

位置 2-75区K-10グリッド(3・4区調査区東部北側)。

重複関係 SDO2と重複し、本遺構の方



第231図 SK04実測図(1/30)

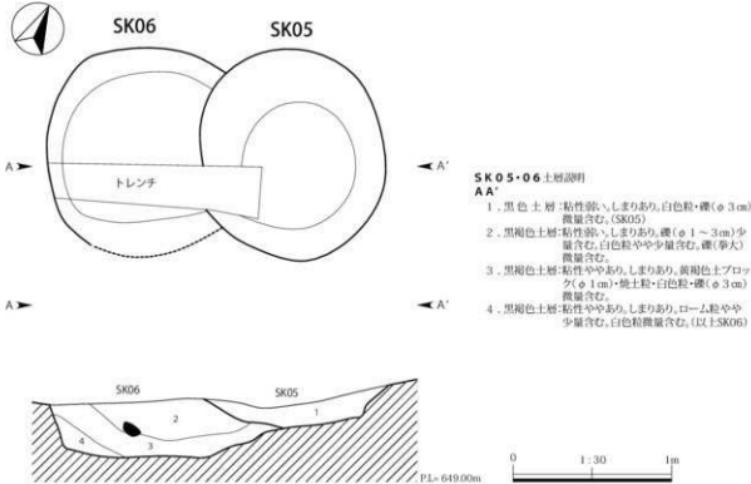
が古いと考えられる。 **遺存状態** トレンチによって東壁が破壊されている。 **覆土** 上層は小礫を含む灰黄褐色砂、下層は黒色・黒褐色砂質土が堆積しており、上層は SD02 の覆土と考えられる。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈すると考えられる。規模は長軸 284cm、短軸 215cm 以上。確認面からの深さ 54cm を測る。 **主軸方位** N-3°-W **壁面** 大きく外傾し、上位はほぼ垂直に立ち上がる。

底面 西側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器 2 点を図示し得た。

備考 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から縄文時代中期の可能性が高いと考えられる。

SK05 (第 232・235 図 / PL 100・107)

位置 2-75 区 C-16 グリッド (3・4 区調査区西部南側)。 **重複関係** SK06、SD05 と重複し、本遺構は SK06 より新しい。SD05 との新旧関係は不明であるが、本遺構の方が新しいと考えられる。 **遺存状態** 上部が削平されていると考えられるが、概ね良好である。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平**



第232図 SK05・06実測図(1/30)

面形と規模 平面形は円形を呈する。規模は長軸 135cm、短軸 75cm、確認面からの深さ 33cm を測る。**主軸方位** N-30°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。**底面** 南西側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物** 繩文土器 1 点を図示し得た。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から繩文時代後期の可能性が高いと考えられる。

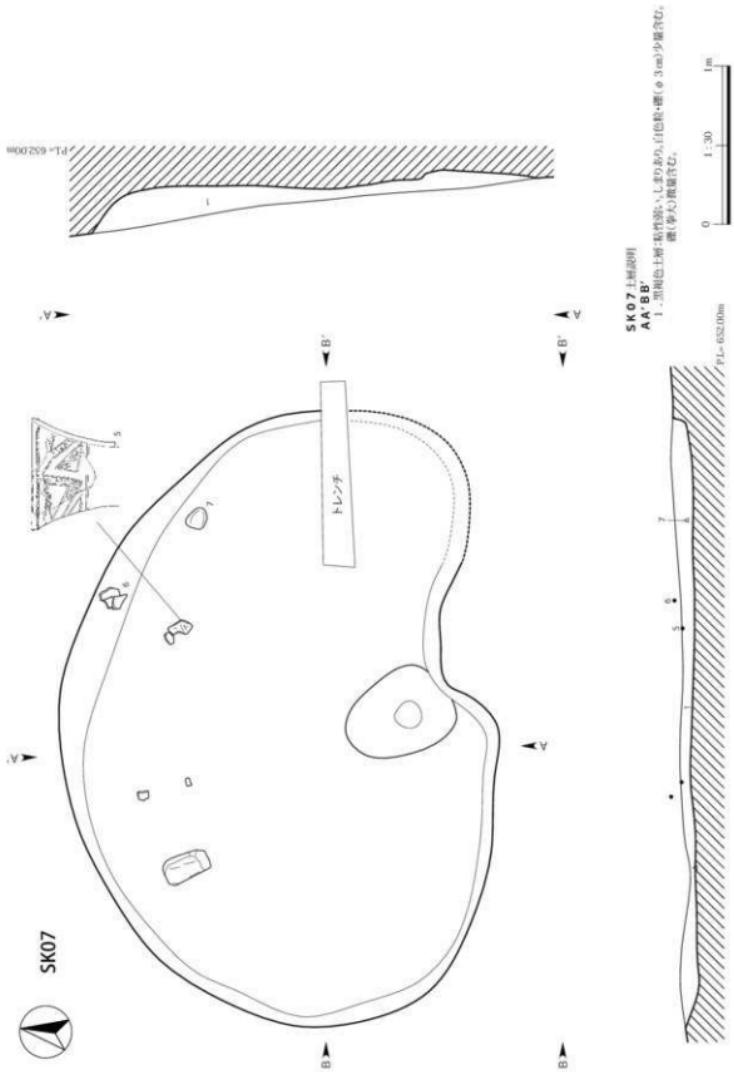
SK06 (第 232・235 図／P L 107)

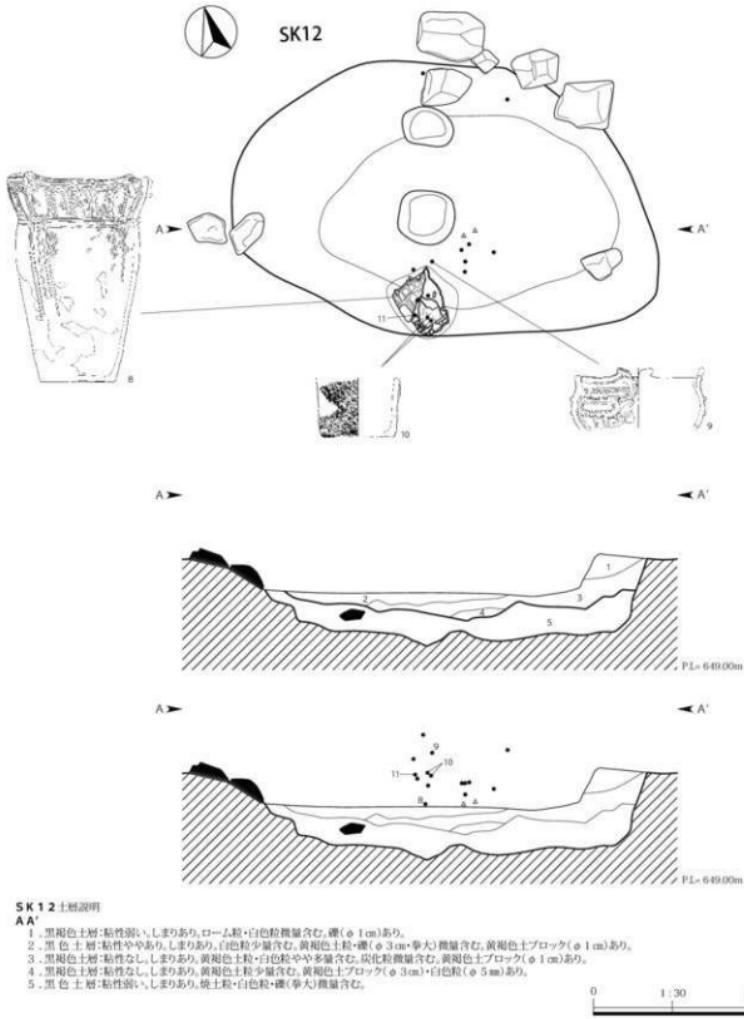
位置 2-75 区 C-16 グリッド (3・4 区調査区西部南側)。**重複関係** SK05、SD05 と重複し、本遺構は SK05 より古い。SD05 との新旧関係は不明であるが、本遺構の方が新しいと考えられる。**遺存状況** 上部は削平されていると考えられるが、概ね良好である。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 155cm、短軸推定 135cm、確認面からの深さ 50cm を測る。

主軸方位 N-80°-E **壁面** 東側は大きく外傾し、西側はほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 繩文土器 1 点を図示し得た。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から繩文時代後期（堀之内 2 式期）の可能性が高いと考えられる。

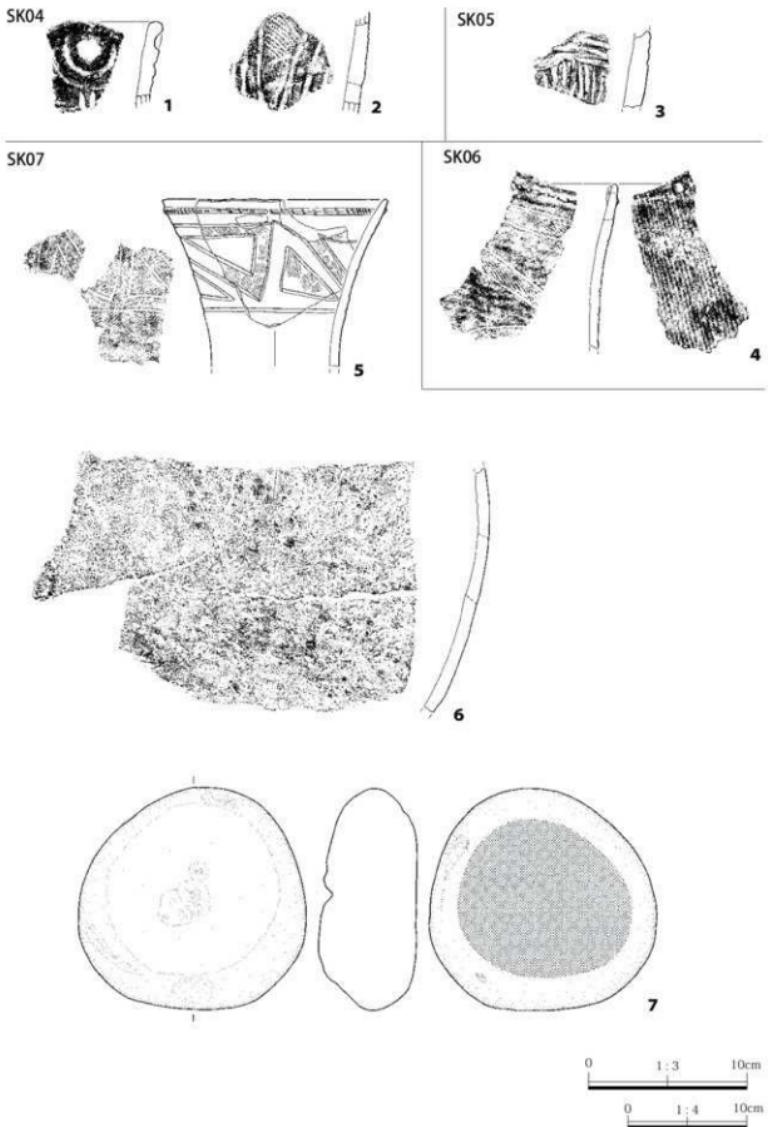
SK07 (第 233・235 図／P L 107)

位置 2-75 区 D-12 グリッド (3・4 区調査区西部北側)。**重複関係** なし。**遺存状況** 南東部がトレンチによって壊されたが、それ以外は概ね良好である。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は不整梢円形を呈し、長軸 387cm、短軸 276cm、確認面からの深さ 38cm を測る。**主軸方位** N-9°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦であるが、南側に小さな窪みが見られる。**遺物** 北壁付近から少量出土し、繩文土器 2 点、磨石 1 点を図示し得た。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から繩文時代後期（堀之内 2 式期）と判断した。





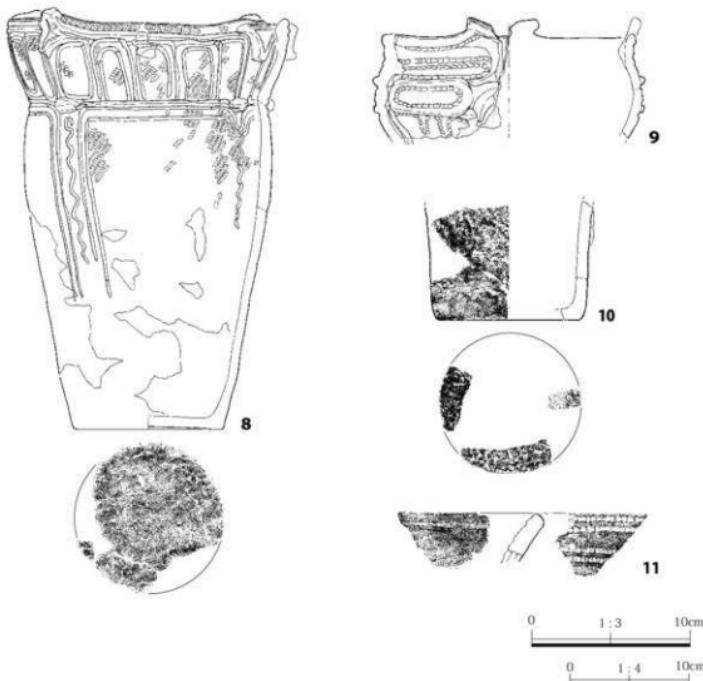
第234図 SK12実測図(1/30)



第235図 繩文時代土坑出土遺物実測図①(1/3・1/4)

SK12

—京大遺研 IV



第236図 縄文時代土坑出土遺物実測図②(1/3・1/4)

SK12 (第234・236図／P L 100・107・108)

位置 2—75 区H・I—15 グリッド (3・4区調査区中央部南側)。 **重複関係** SD03と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状況** 当初本遺構の存在を確認できずにSD03を掘り下げたことによって上位の一部が壊されているが、下部は概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈し、長軸 275cm、短軸 175cm、確認面からの深さ 62cmを測る。

主輪方位 N—56°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 地山が礫を含んでおり凸凹する。 **遺物** 中位から第236図8の縄文土器深鉢が、上位から同時期の縄文土器片が少量出土している。縄文土器4点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。縄文時期は、出土遺物から縄文時代中期初頭～前葉（五領ヶ台II式～阿玉台Ia式期）と判断した。

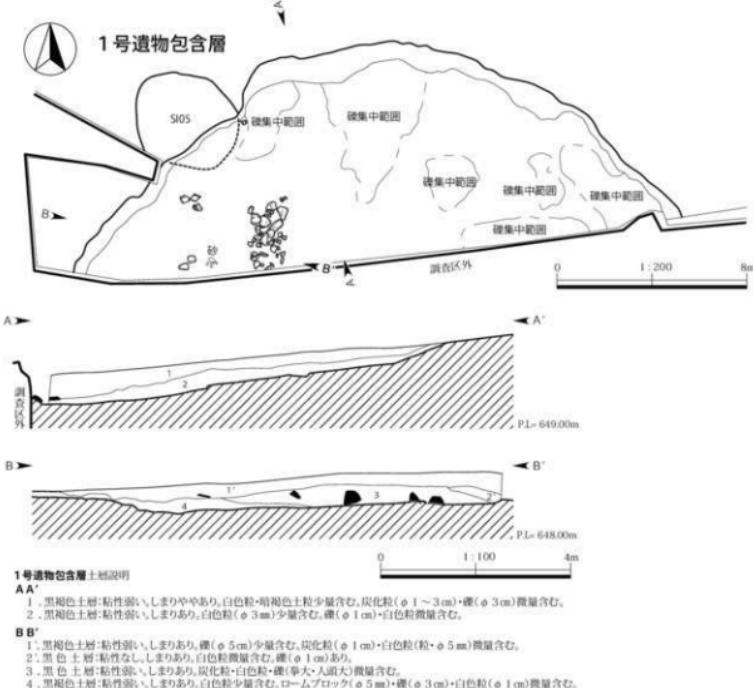
(3) 遺物包含層

1号遺物包含層(第237～245図／PL 101・108～111)

位置 2-75区D～F-16、D～G-17、C～H-18グリッド(3・4区調査区南西隅部)。重複関係

なし。実測図ではS105と重複しているが、遺物包含層を掘り下げる際に暗褐色土の地山との見極めが難しく、その下層の黄褐色土まで掘り過ぎたことによるものである。本来は重複していなかったと考えられる。

覆土 黒褐色土・黒色土が基調で、自然堆積を示す。平面形と規模 平面形は、南側が調査区外にあるため北側に膨らんだ半円形を呈する。規模は、長さ8.95m以上、幅25.85m以上。確認面からの深さ54cm、底から上端までの比高差は123cmを測る。**主軸方位** N-9°-W **遺物** 確認面から少量、覆土中層～下層から多量の縄文土器片・石器が出土している。縄文土器72点、石鏃2点、打製石斧2点、石棒1点、剥片2点、磨石3点、脚付石皿1点を図示した。**概要** 3・4区調査区の南西隅部で検出された黒褐色土範囲にトレントを設定し疊を含む地山まで掘り下げてみた所、黒褐色土・黒色土が55cm～75cmの厚さで堆積していることが確認された。堆積土の中～下層から縄文土器片が出土したことから、谷状の地形があったが土器片とともに土が堆積していく埋まつた場所と考えて全体の掘り下げを行った。その結果、谷状の地形ではなく広範囲にわたって緩やかに窪んだ地形であることが確認された。以上のことから、3・4区調査区の南西隅部は緩やかな窪地が埋没していく過程で形成された縄文時代後期～晩期の遺物包含層と判断した。



第237図 1号遺物包含層実測図(1/100・1/200)

0 4m
1:100

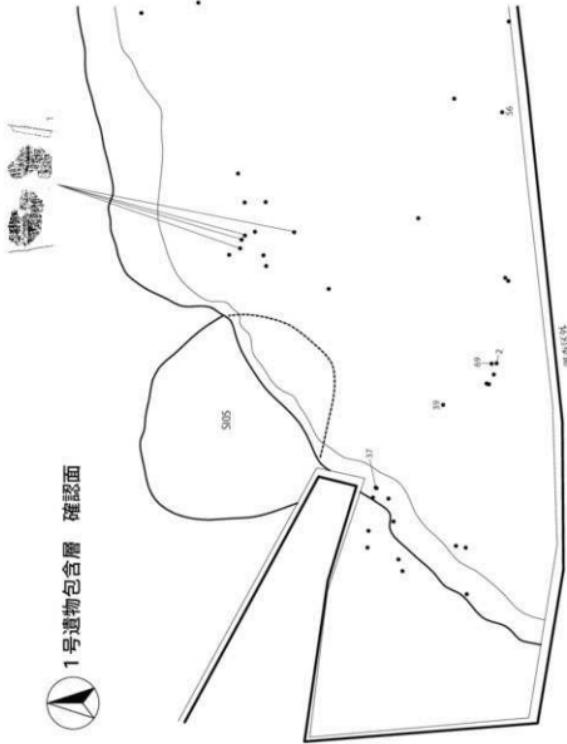
測量点59

49
50
51₂

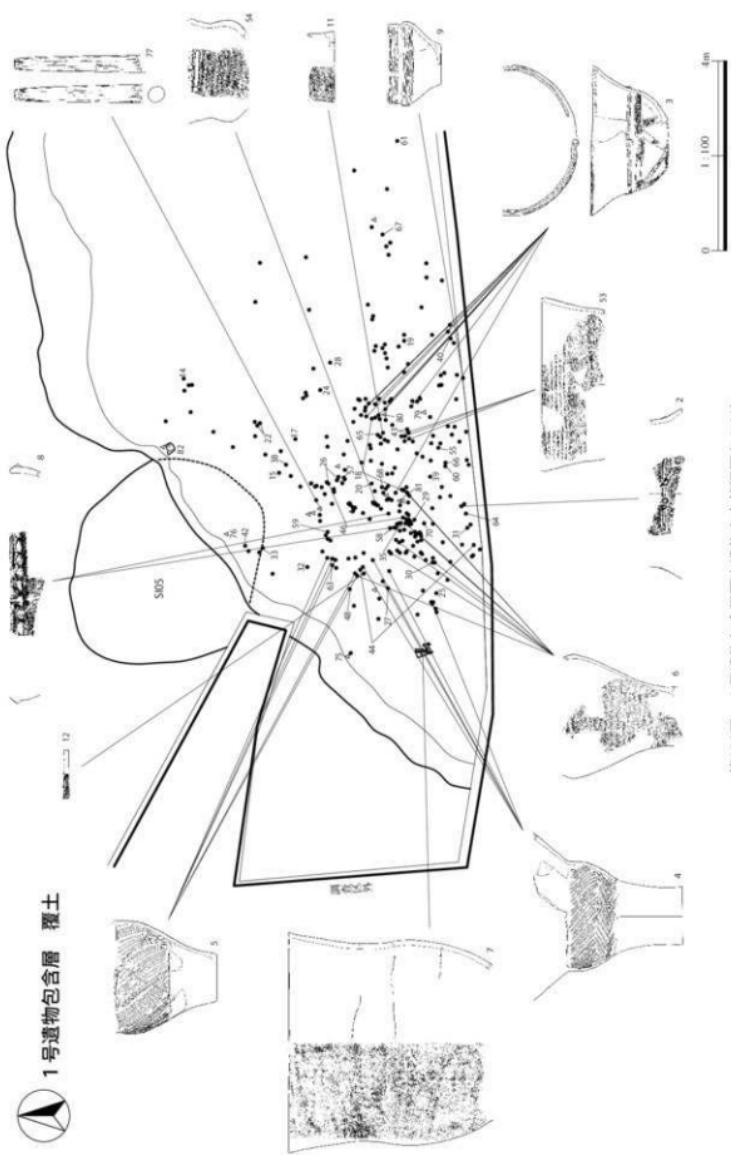
50

51₁

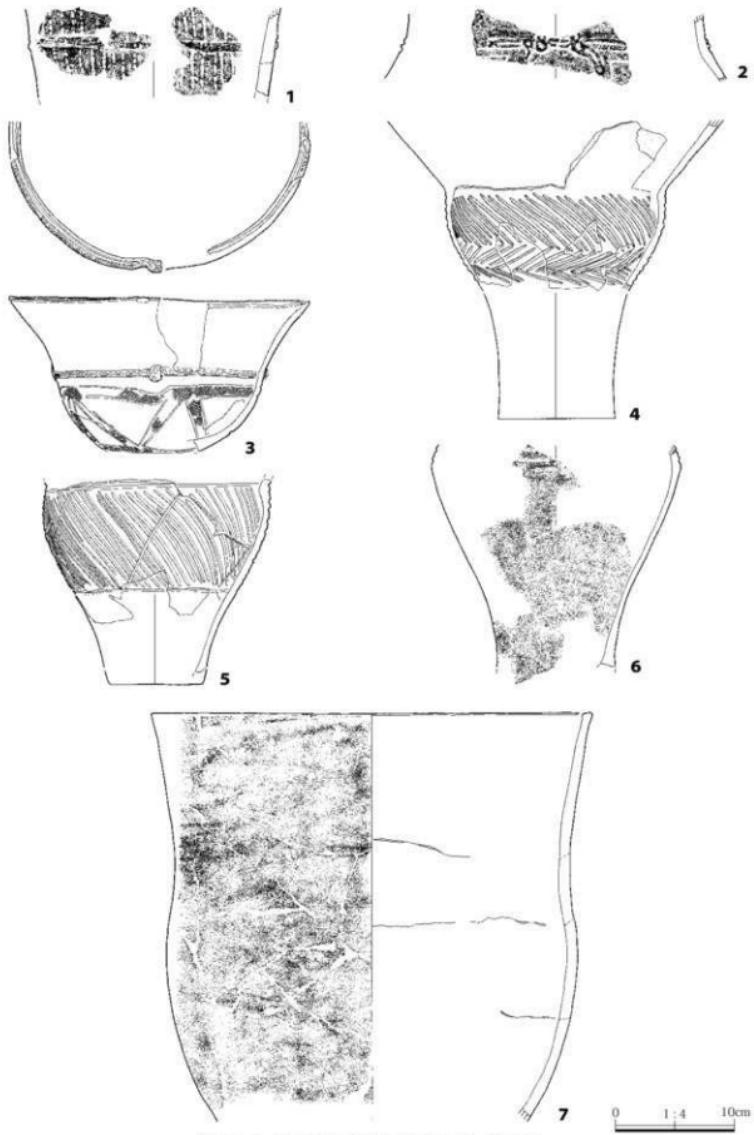
SOS



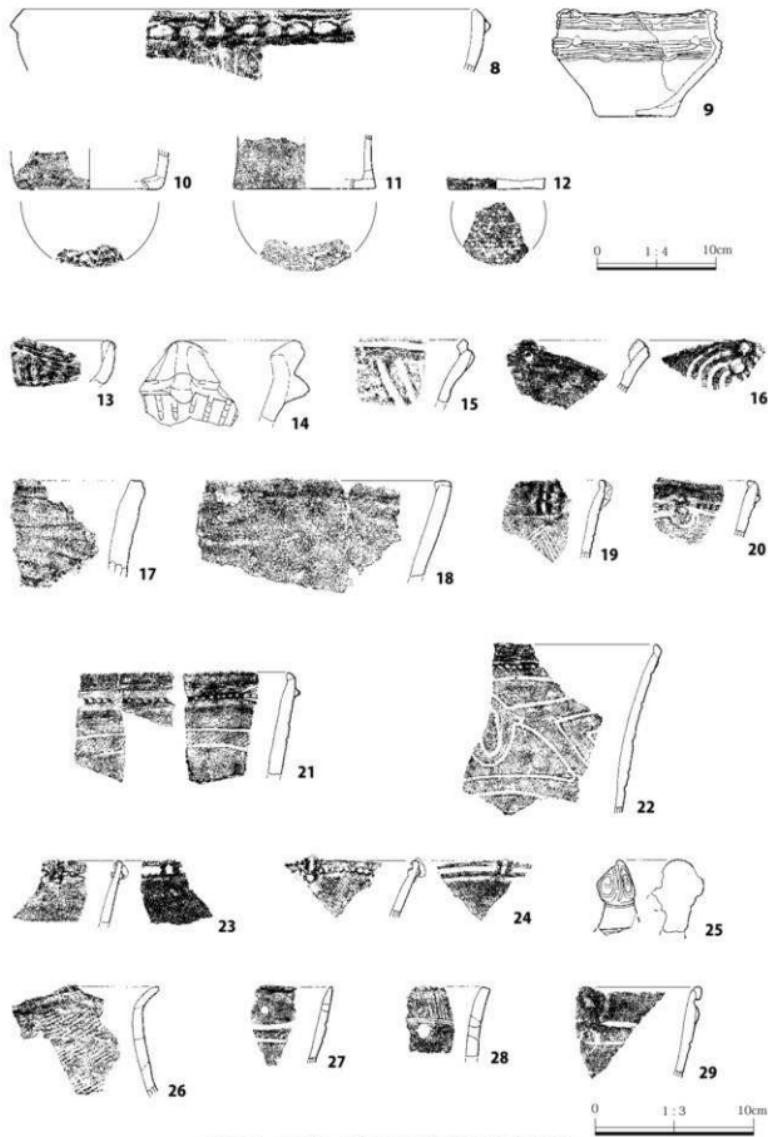
第238図 1号遺物包含層確認面
(1/100)



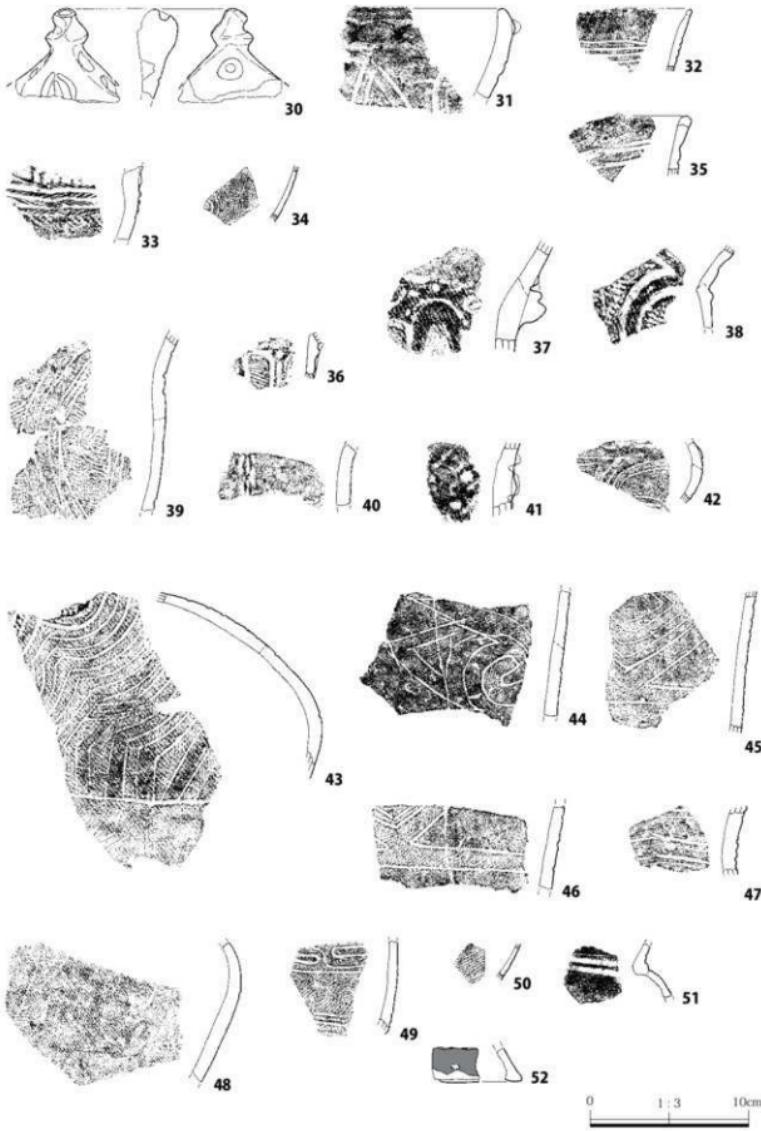
第239図 1号遺物包含層覆土遺物出土状況図(1/100)



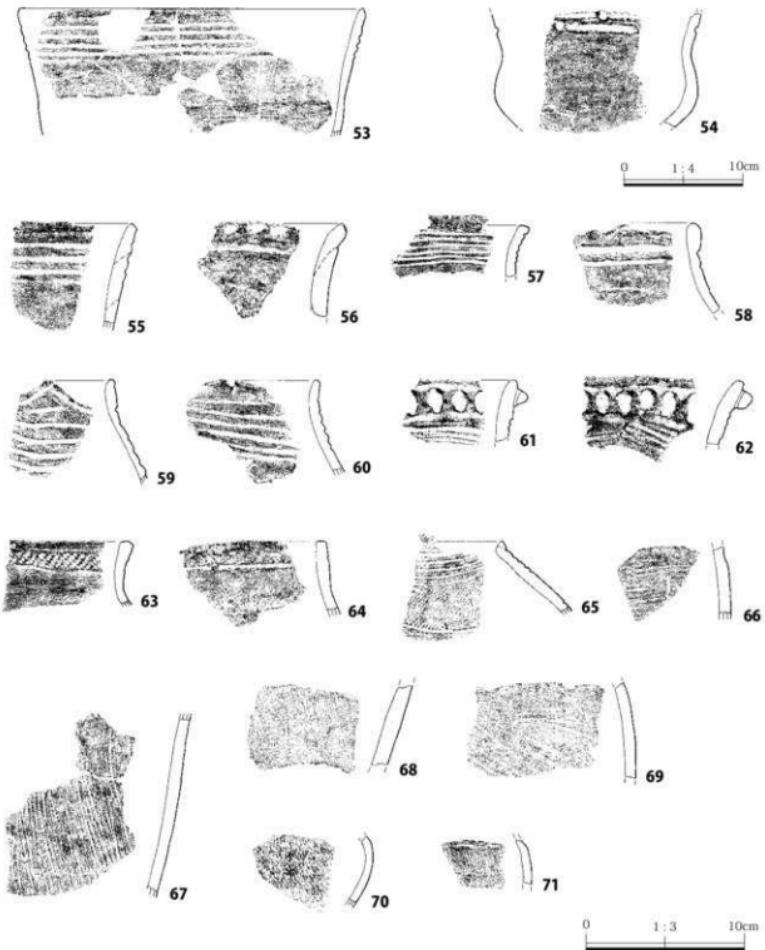
第240図 1号遺物包含層出土遺物実測図①(1/4)



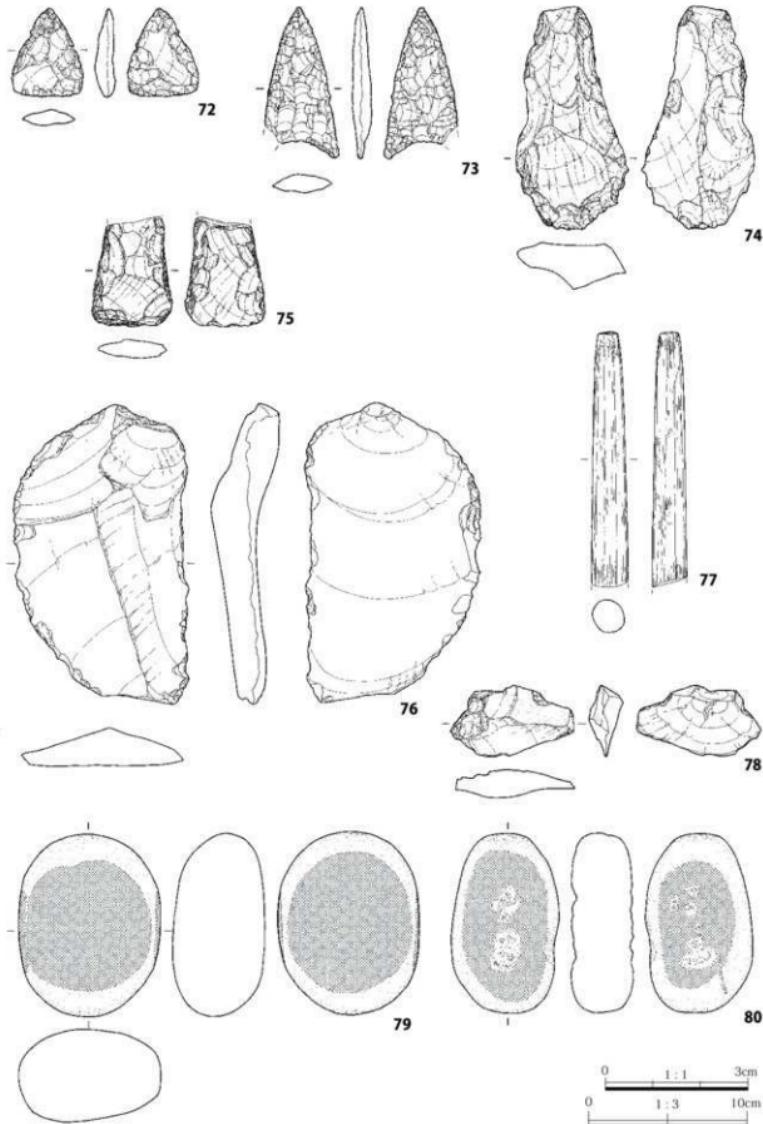
第241図 1号遺物包含層出土遺物実測図②(1/3・1/4)



第242図 1号遺物包含層出土遺物実測図③(1/3)

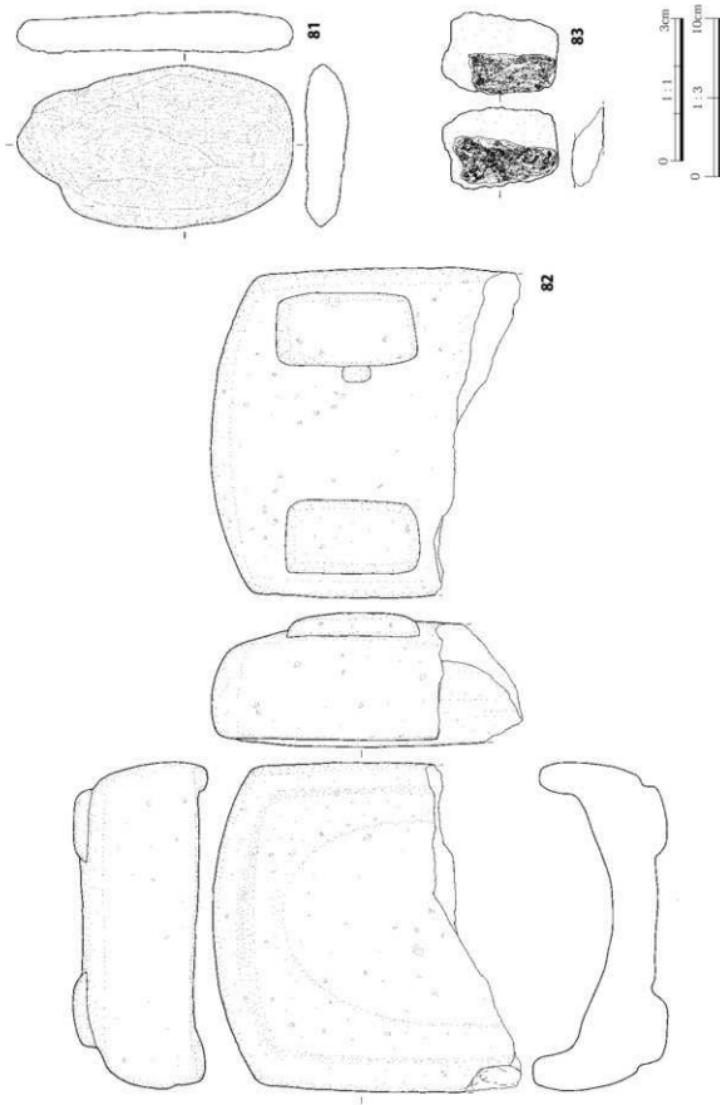


第243図 1号遺物包含層出土遺物実測図④(1/3・1/4)



第244図 1号遺物包含層出土遺物実測図⑨(1/1・1/3)

第245圖 1號遺物包含層出土遺物實測圖⑤(1/1•1/3)

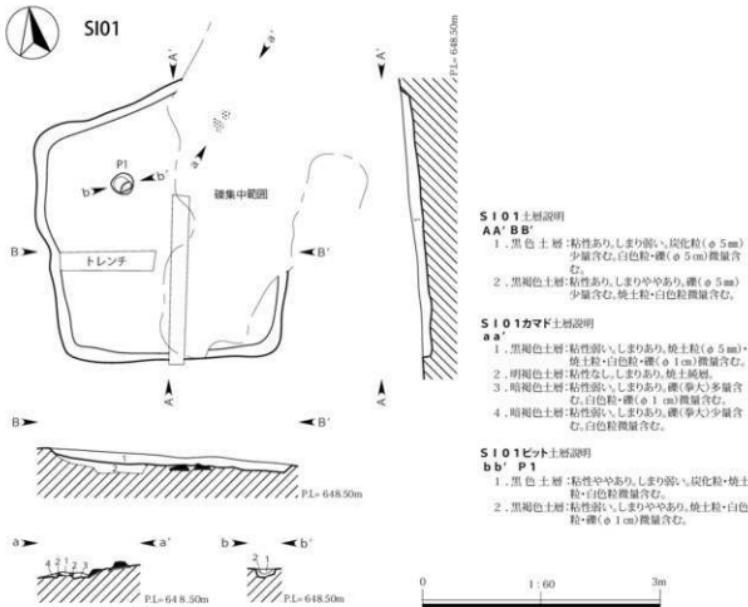


第3節 古墳時代の遺構と遺物

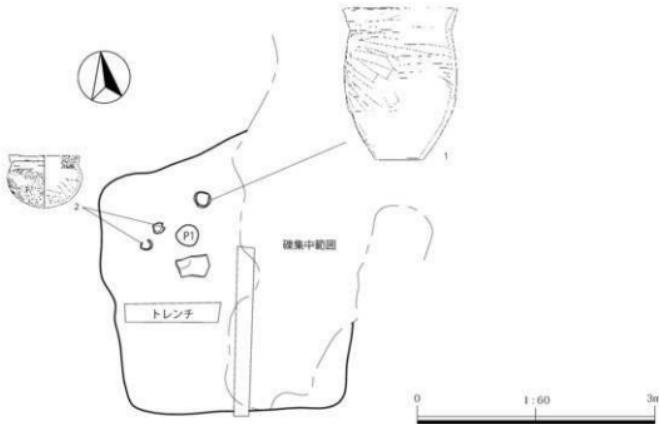
(1) 穫穴住居跡

SI01 (第246～248図／PL 101・102・111)

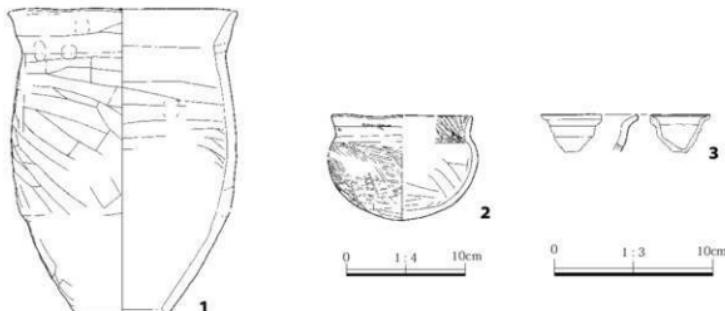
位置 2-75区K-15グリッド(3・4区調査区中央部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 上部は削平されており、壁面はほとんど現存していない。壁の東半分が直径1m以上の大岩や人頭大の礫を含む地山であることから、壁面・床面が判別できなかった。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は台形か、五角形を呈すると考えられる。主軸は3.50m以上、副軸は3.17m以上、確認面からの深さは最深16cm、床面積は8.78m²以上を測る。 **主軸方位** N-9°-E **壁・壁溝** 壁高は8～10cmを測り、外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締まりは確認できなかった。南東方向に向かって傾斜しており、東側は石が露出し凸凹である。 **柱穴** P1を検出した。平面形は円形を呈し、長軸・短軸27cm、床面からの深さは16cmを測る。 **カマド** 繰集中範囲で確認された焼土がカマドの痕跡で、北壁の中央東寄りに位置していたとを考えられる。上部が削平されているため遺存状況は悪く、底面も繰集中範囲にあるためはっきりしない。 **その他の施設** 確認されていない。 **遺物検出状況** 北西部で台になりそうな石や土器類が集中する。第248図2の环は削れた状態で覆土下層から出土し、同図1の環は床面直上から口縁部を下にした状態で出土している。 **遺物** 出土遺物のうち、土器3点を図示得た。 **備考** 本遺構は、カマドの痕跡が検出されたことと、床面直上から遺物が出土している状況から小型



第246図 SI01実測図(1/60)



第247図 SI01遺物出土状況図(1/60)



第248図 SI01出土遺物実測図(1/3・1/4)

の竪穴住居跡と判断した。床面の大半で地山の岩・礫が露出しており、居住空間ではなく何らかの作業場であった可能性も考えられる。帰属時期は、出土遺物から5世紀後半～6世紀前半の古墳時代後期と考えられる。

SI07 (第249～252図／PL 102・111・112)

位置 2-75区1・J-16グリッド(3・4区調査区中央部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 上層は黒褐色土で、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は方形を呈する。主軸は3.68m、副軸は3.33m、確認面からの深さは最深35cm、床面積は9.12m²を測る。

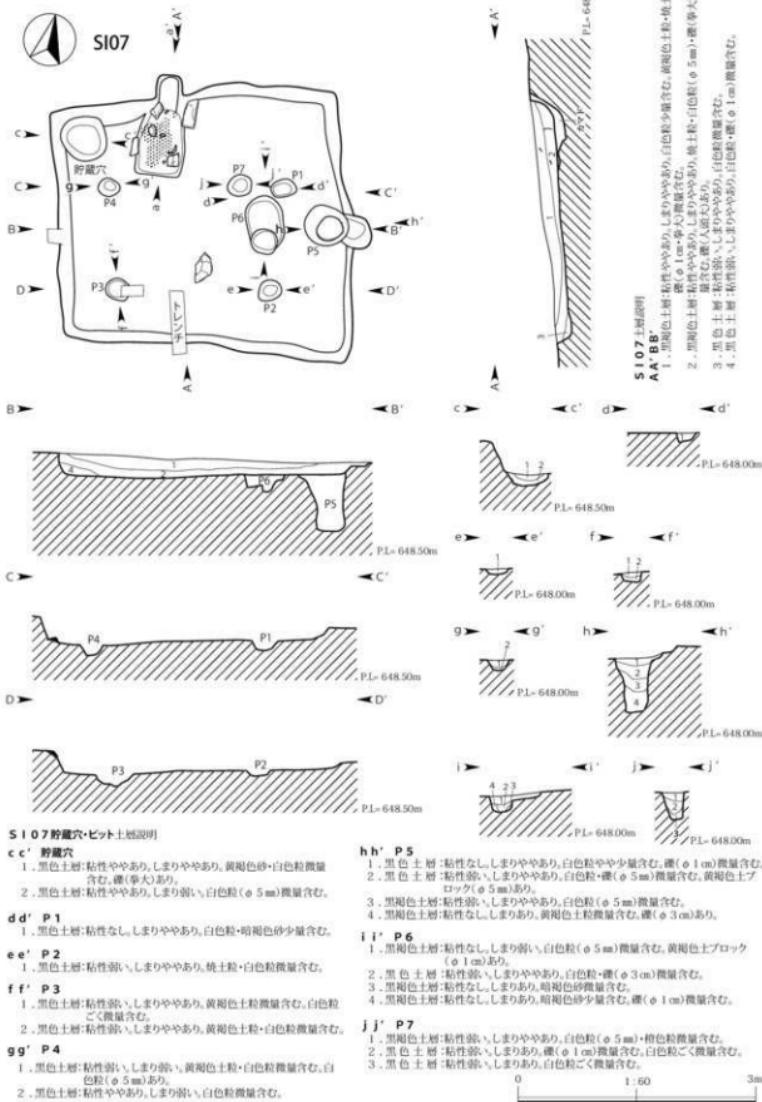
主軸方位 N-13°-W **壁・壁溝** 壁高は15～25cmを測り、外傾して立ち上がる。壁溝は確認されていない。

床面 直床式であるが貼床や踏み締まりは確認できなかった。床面は南に向かって緩やかに傾斜している。

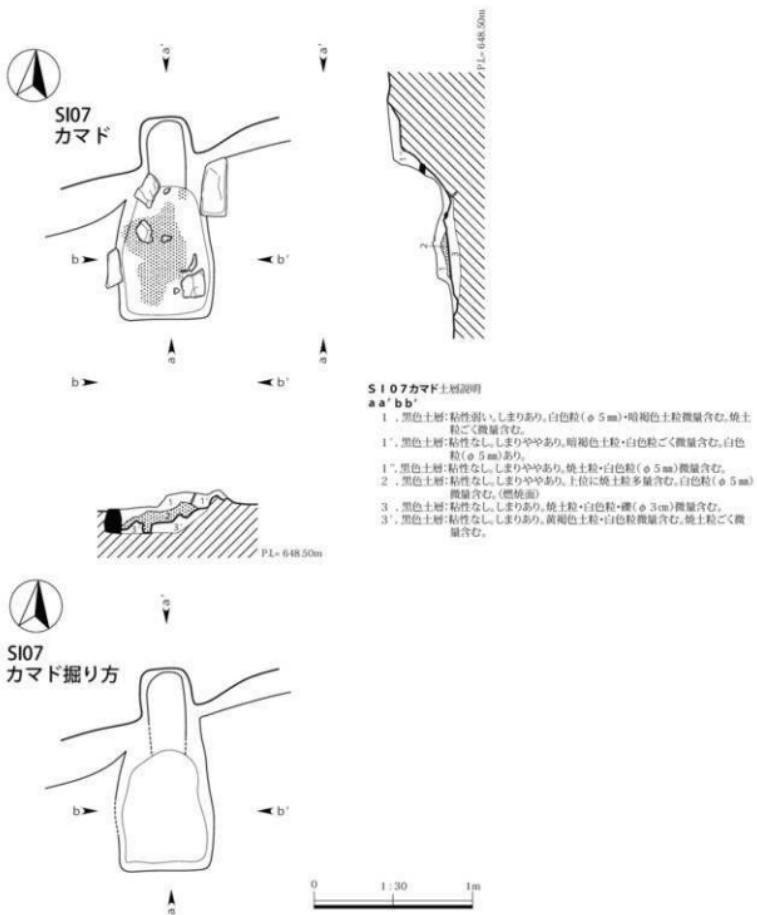
柱穴 P1～P7まで確認された。P1～P4は位置から主柱穴と考えられる。P5～P7はP1～

P4よりも深く掘られ、とりわけP5が深い。それぞれの規模については第31表に記載する。

カマド 北



第249図 SI07実測図(1/60)

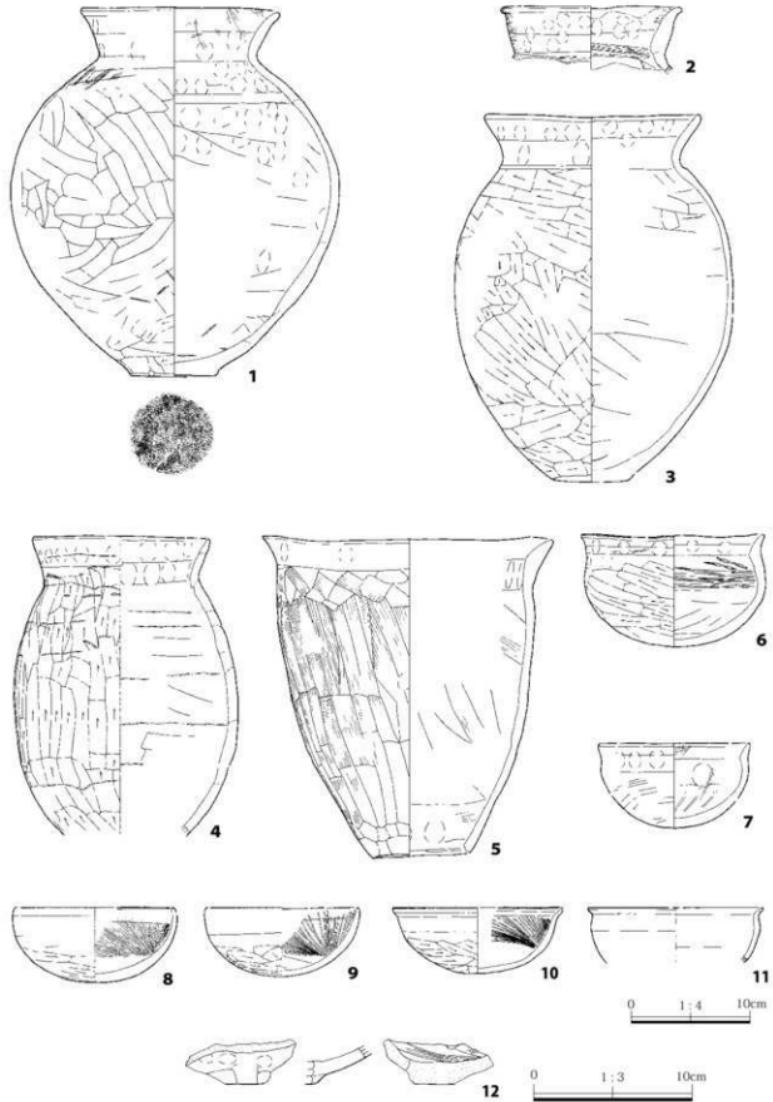


第250図 SI07カマド・カマド掘り方実測図(1/30)

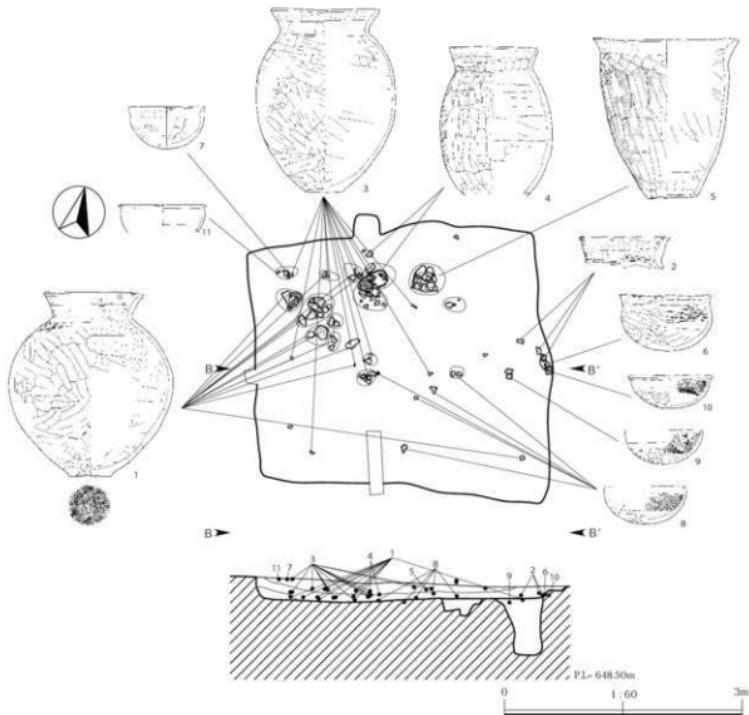
第31表 SI07 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
長軸長(cm)	32	33	31	27	86	73	33
短軸長(cm)	23	26	28	23	48	45	28
深さ(cm)	16	8	14	13	68	26	38

壁の中央やや西側に位置する。遺存状態はやや不良で、袖石の一部が動いている。全長は 129cm、最大幅は 68cm を測る。火床面は 5~14cm 掘り込まれ、焼土部分は 6~7cm の厚さを測る。 その他の施設 貯藏穴 1 基が確認された。北西隅部に位置し、平面形は円形を呈する。長軸 60cm、短軸 58cm、床面からの深さ 15cm



第251図 SII07出土遺物実測図(1/3・1/4)



第252図 SI07遺物出土状況図(1/60)

を測る。 **遺物検出状況** カマドやカマド周辺で特に土器が集中し、土師器甕・壺・瓶など大型の土器が出土している。また、P5周辺の住居跡東側も遺物が集中しており、こちらは土師器壺類の小型品が出土している。

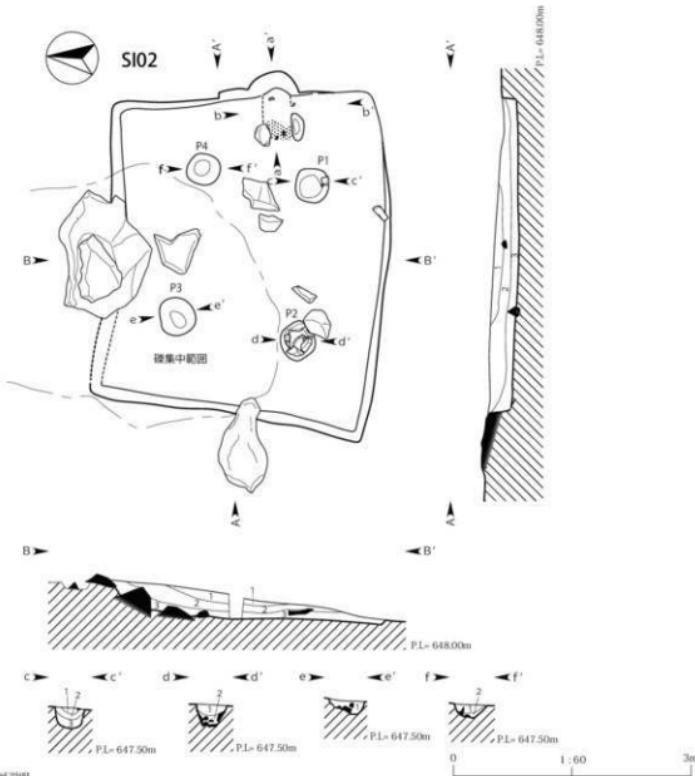
遺物 出土遺物のうち、土師器12点を図示し得た。第251図2の壺口縁部は内部が摩耗していることから土器台に転用された可能性が考えられる。 **備考** 本遺構は、北壁にカマドをもつ4本柱の小型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から5世紀後半～6世紀初頭の古墳時代後期と考えられる。

第4節 平安時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

SI02 (第253～256図／PL 103・105・112)

位置 2-75区K・L-16グリッド(3・4区調査区中央部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 上部は削平されており、南壁はほとんど現存していない。北・西壁の一部は直径1m以上の大岩や人頭大の礫を含む地山であることから、壁面の判別ができなかった。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は方形を呈する。主軸は4.39m、副軸は3.60m、確認面からの深さは最深38cm、床面積は12.44m²を測る。 **主軸方位** N-85°-E **壁・壁溝** 壁高は東・西・北壁が20～35cm、南壁が5cmを測り、



S102ピット上部説明

AA' BB'

1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり、白色粒・礫(φ 1cm)微量含む。炭化粒ごく微量含む。
2. 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり、炭化粒(φ 5mm)・白色粒微量含む。礫(人頭大)あり。
3. 黒色土層: 粘性ややあり、しまりややあり、礫(拳大)少量含む。白色粒(φ 5mm)・礫(人頭大)微量含む。

S102ピット上部説明

CC' PP'

1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり、白色粒微量含む。炭化粒ごく微量含む。
2. 黑色土層: 粘性弱い、しまり弱い、白色粒・礫(φ 5cm)微量含む。明黄褐色砂(φ 5mm)あり。
3. 黑色土層: 粘性なし、しまりあり、礫(φ 3cm)少量含む。灰灰(φ 3mm・塊状)・白色粒微量含む。

dd' P2

1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり、白色粒(φ 5mm)微量含む。
2. 黑色土層: 粘性やや弱い、しまりややあり。

ee' P3

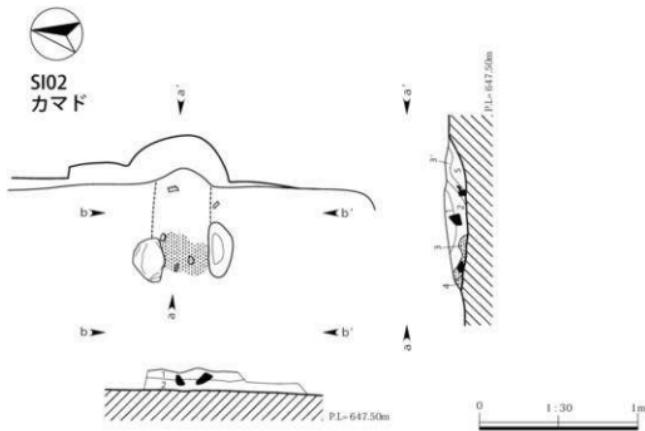
1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりややあり、礫(φ 3~5cm)少量含む。燒土粒・白色粒・礫(拳大)微量含む。
2. 黑色土層: 粘性弱い、しまりあり、白色粒・礫(φ 5cm)微量含む。

ff' P4

1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりややあり、白色粒・礫(φ 5mm)微量含む。明黄褐色砂(φ 5mm)あり。
2. 黑色土層: 粘性やや弱い、しまり弱い、礫(φ 3cm)少量含む。白色粒・礫(拳大)微量含む。

第253図 S102実測図(1/60)

外傾して立ち上がる。壁溝は確認されていない。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締まりは確認できなかった。床面は北壁が若干高くなるが、概ね平坦である。北から北西部で礫が露出しており凸凹である。 **柱穴** P 1 ~ P 4 まで確認された。4本柱の建物であると考えられる。壁面・底面の地山には礫が多く含まれている。それぞれの規模については第32表に記載する。 **カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置している。遺存状態はやや不良で、両袖がない状態である。全長は 90cm、最大幅は袖石やその痕跡から推定 63cm 以上を測る。火

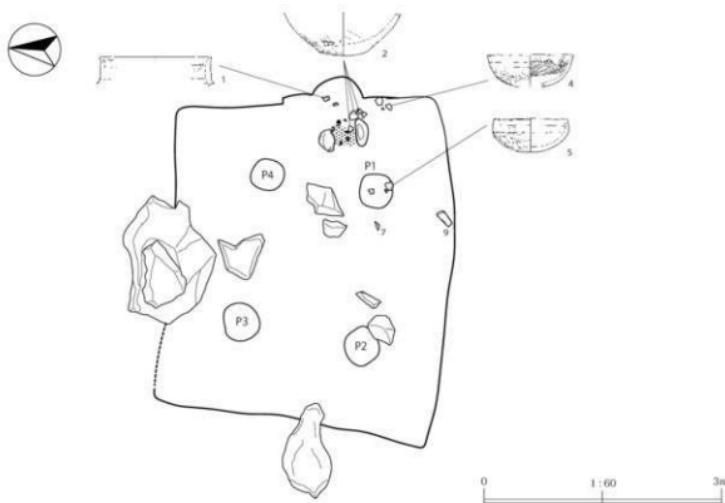


SI02カマド土層説明

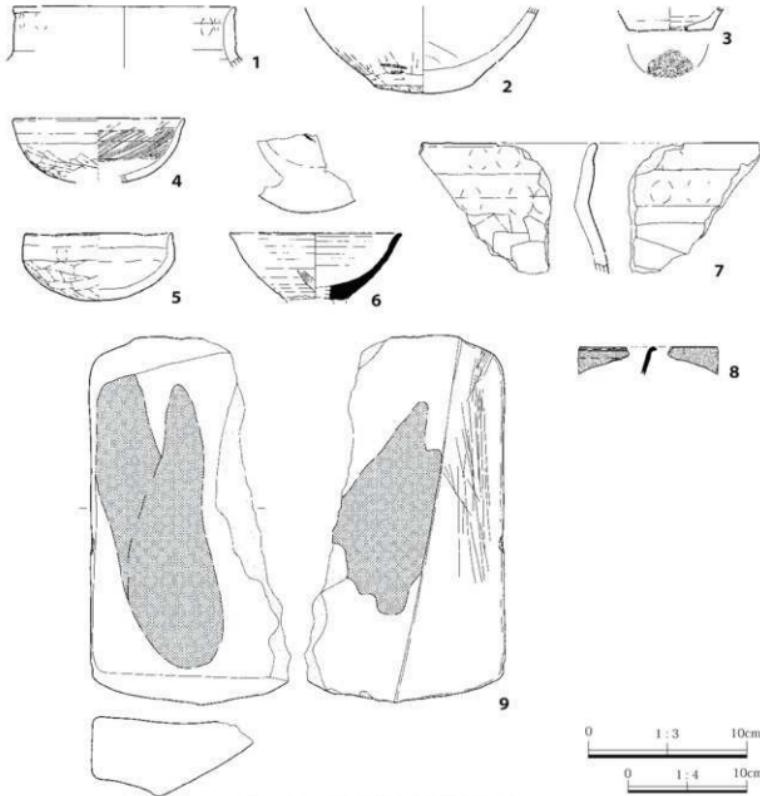
a a' b b'

1. 黒褐色土層：粘性なし。しまりややあり。焼土粒・白色粒微量含む。
2. 黒色土層：粘性なし。しまり弱い。焼土粒多量含む。礫(拳大)あり。
- 3'. 褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。焼土粒・白色粒微量含む。
3. 黒色土層：粘性弱い。しまりややあり。焼土粒多量含む。
4. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまりあり。焼土粒・白色粒微量含む。
5. 黒色土層：粘性弱い。しまりあり。炭化粒・焼土粒・白色粒微量含む。礫(Φ 5cm)あり。

第254図 SI02カマド実測図(1/30)



第255図 SI02遺物出土状況図(1/60)



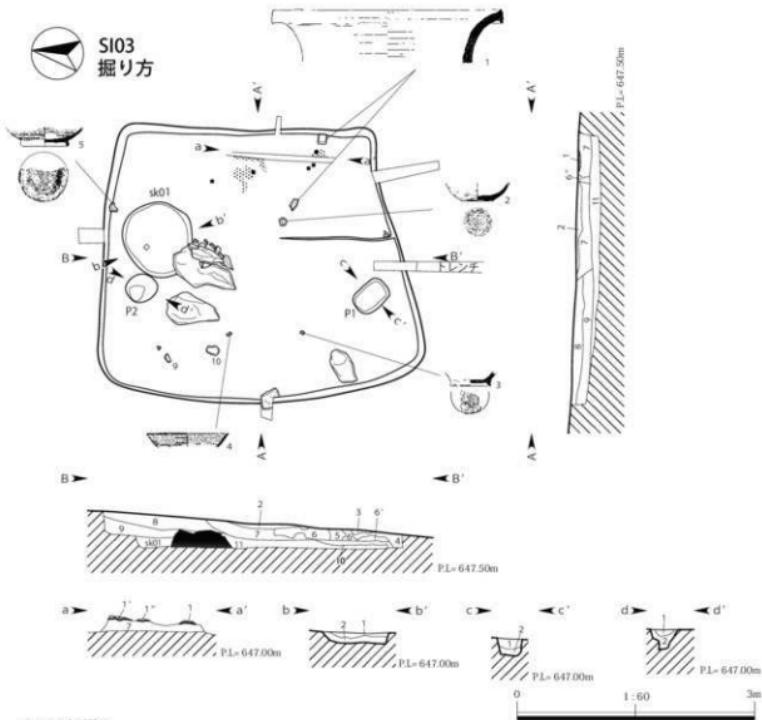
第256図 SI02出土遺物実測図(1/3・1/4)

床面は5cm掘り込まれ、焼土部分は確認されず、焼土はブロック状に含まれる。**その他の施設** 確認されていない。**遺物検出状況** 遺物量は少なく、P1上の覆土中及びカマド堆積土で散見された。第256図9の底石は床面から出土した。

遺物 出土遺物のうち、土師器6点、須恵器1点、灰釉陶器1点、石製品1点を図示した。**備考** 本遺構は、東壁にカマドをもつ4本柱の中型の竪穴住居跡である。床面の約1/4で地山の岩・礫が露出しており、居住空間ではなく何らかの作業場であった可能性も考えられる。縚属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

SI03 (第257・258図／PL 103・105・112)

位置 2-75区M・N-16グリッド(3・4区調査区中央部南側)。**重複関係** SD02と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 上部が削平されており、遺構確認した時点では壁がなく床面のみであった。掘り

**SI03 土層説明**

1. 黄褐色土層: 粘性なし・しまりあり・燒土範囲。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い・しまりあり・燒土粒少量含む・炭化粒(φ 5mm塊状)微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性弱い・しまりあり・白色粒少量含む・炭化粒・燒土粒(φ 5mm塊状)微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性やや弱い・しまりあり・炭化粒(φ 1-3cm)・燒土粒微量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性なし・しまりあり・白色粒(φ 1cm)微量含む。
6. 黄褐色土層: 粘性なし・しまりあり・白色粒多量含む・燒土粒(西側一部帶)・礫(φ 1cm)少量含む・褐色砂(φ 5mm)微量含む。
7. 黑褐色土層: 粘性なし・しまりあり・白色粒少量含む・燒土粒(φ 1cm)微量含む・褐色砂(φ 1cm)あり。
8. 黑褐色土層: 粘性なし・しまりあり・褐色砂(φ 1cm)微量含む・炭化粒(φ 3-5cm)・燒土粒(φ 1cm)あり。
9. 黑褐色土層: 粘性なし・しまりあり・褐色砂(φ 5cm)・黄色粒(φ 5cm)微量含む・燒土粒(φ 5cm)微量含む・礫(φ 3cm・拳大)あり。
10. 黑褐色土層: 粘性なし・しまりあり・白色粒に混じる黄褐色砂少量含む・礫(φ 5cm)微量含む。
11. 黑色土層: 粘性なし・しまりあり・白色粒(φ 3cm)少量含む・褐色砂(φ 5mm)・白色粒(φ 5mm)微量含む。

SI03 土坑・ビット土層説明**b b' s k 0 1**

1. 黑色土層: 粘性ややあり・しまりあり・黃褐色砂(φ 1cm)・白色粒・礫(φ 1cm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い・しまりあり・黃褐色砂(φ 5mm)・燒土粒(φ 5mm)・白色粒(φ 5mm)・礫(φ 3mm)微量含む。

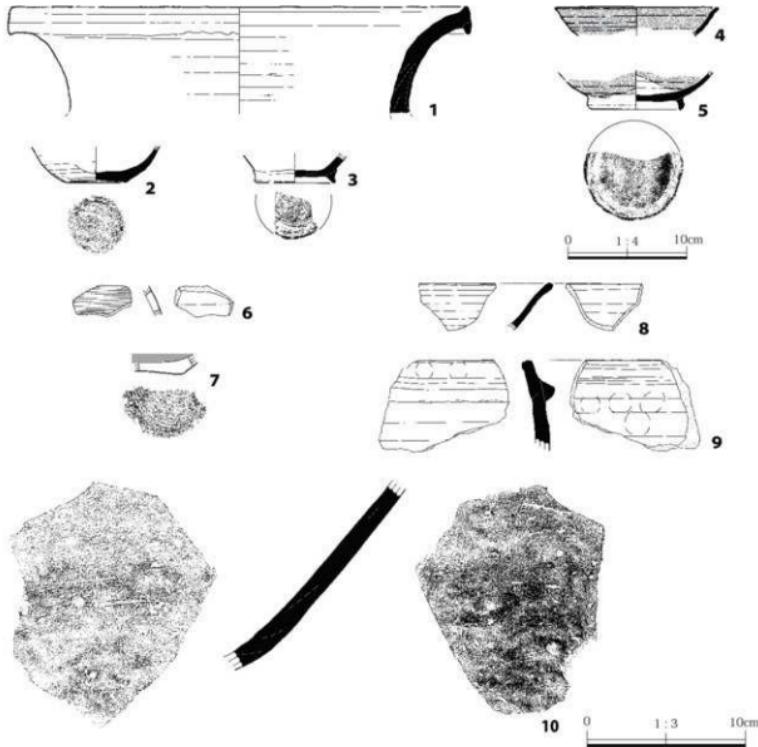
c c' p 1

1. 黑色土層: 粘性弱い・しまりややあり・黃褐色砂(φ 1cm)・白色粒・礫(φ 1cm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性やや弱い・しまりあり・黃褐色砂(φ 1cm)・白色粒・礫(φ 1cm)微量含む。

d d' p 2

1. 黑色土層: 粘性弱い・しまりあり・黃褐色砂(φ 1cm)・白色粒少量含む・礫(φ 3cm)あり。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い・しまりあり・黃褐色砂(φ 1cm)・白色粒・礫(φ 3cm)微量含む。

第257図 SI03掘り方実測図(1/60)



第258図 SI03出土遺物実測図(1/3+1/4)

方を調査した状況である。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。2層～7層は SD02 の覆土である褐色砂が混ざっている。堆積状況は人為堆積と考えられる。 **平面形と規模** 平面形は隅丸台形を呈する。主軸は 3.42 m、副軸は 4.16 m、確認面から掘り方底面までの深さは最深 44cm、床面積は 11.61m² を測る。 **主軸方位** N-82°-E **壁・壁溝** 掘り方から確認面までの壁高は 20～27cm を測り、ほぼ直に立ち上がる。壁溝は確認されていない。 **床面** 南側に向かって緩やかに傾斜する。 **柱穴** P 1・P 2 が確認された。P 1 は平面形が隅丸長方形を呈する。位置から主柱穴（壁柱穴）の可能性が考えられる。それぞれの規模については第 33 表に記載する。 **カマド** 東壁のほぼ中央で確認された焼土が火床面と考えられるところから、カマドは東壁のほぼ中央に位置していたと考えられる。全長は 69cm 以上、最大幅は 60cm 以上を測る。焼土部分の厚さは 4cm 以上を有する。 **その他の施設** 掘り方の底面から土坑 1 基が確認された。北壁際に位置し、平面形は円形を呈する。長軸 96cm、短軸 90cm、底面からの深さ 14cm を測る。 **遺物検出状況** 遺物量は少ないが、住居跡全域の床面から散見された。 **遺物** 出土遺物のうち、土師器 1 点、土師質土器 1 点、須恵器 6 点、灰釉陶器 2 点を図示し得た。土師器ロクロ甕と須恵器羽釜が共伴している。 **備考** 本遺構は、掘り下げを行なった結果、床面のみ現存する小型の

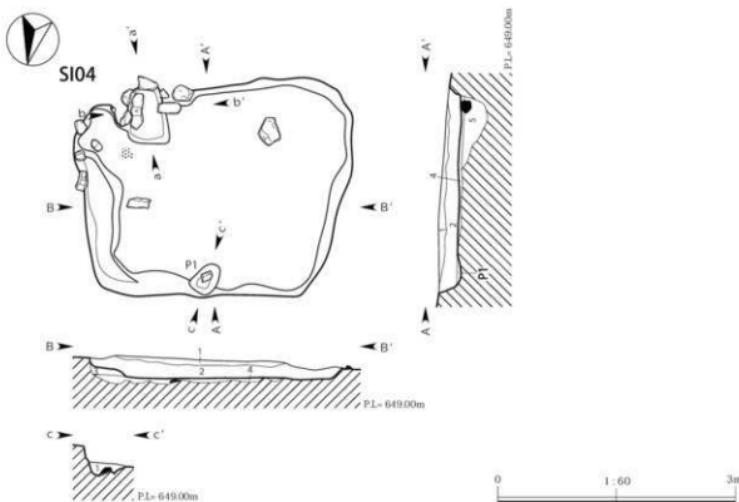
第33表 SI03 ピット計測表

	P 1	P 2
長軸長 (cm)	48	38
短軸長 (cm)	33	37
深さ (cm)	17	26

竪穴住居跡であることが確認された。2本柱で、東壁にカマドが造られていたと考えられる。帰属時期は、出土遺物から10世紀前半と考えられる。

SI04 (第259～263図／P.L. 104・105・113)

位置 2-75区D-16グリッド(3・4区調査区西部南側)。重複関係なし。遺存状態 上部が削



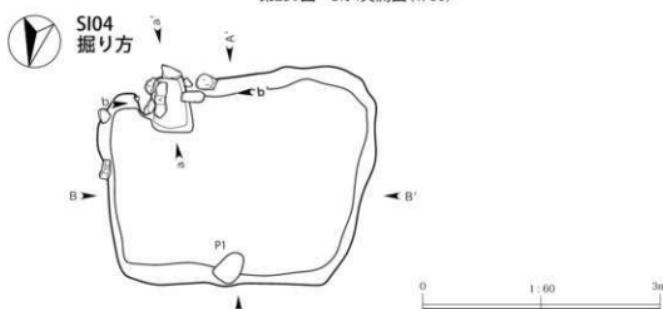
SI04土層説明

1. 黒色土層：粘性地質、しまりややあり、炭化粒（φ 5mm）少量含む。礫（拳大）微量含む。
2. 黒色土層：粘性地質、しまりあり、炭化材・炭化粒（φ 3cm）・埴土粒（粒・φ 30cm塊状）多量含む。礫（拳大）少量含む。礫（人頭大）微量含む。
3. 前褐色土層：粘性地質、しまりあり、礫（φ 3cm）多量含む。白色粒・礫（拳大）微量含む。（塊状施設跡）
4. 黒色土層：粘性地質、しまりあり、暗褐色の少量含む。礫（φ 5cm）微量含む。埴土粒（φ 1cm）あり。
5. 黒色土層：粘性地質、しまりややあり、黄褐色砂（φ 1cm）・礫（拳大）微量含む。礫（人頭大）あり。（以上振り方）

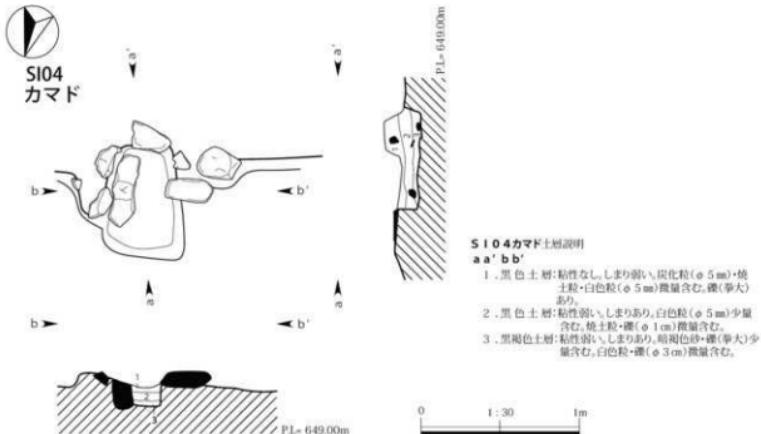
SI04ピット土層説明

- c c' P1
1. 黒色土層：粘性地質、しまりややあり、褐色砂・白色粒・礫（φ 5cm）微量含む。

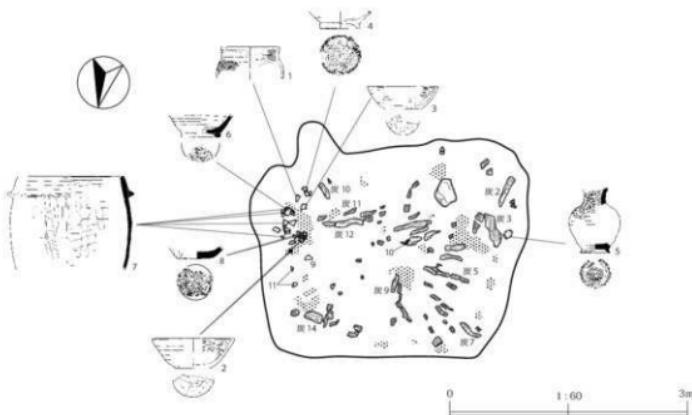
第259図 SI04実測図(1/60)



第260図 SI04掘り方実測図(1/60)

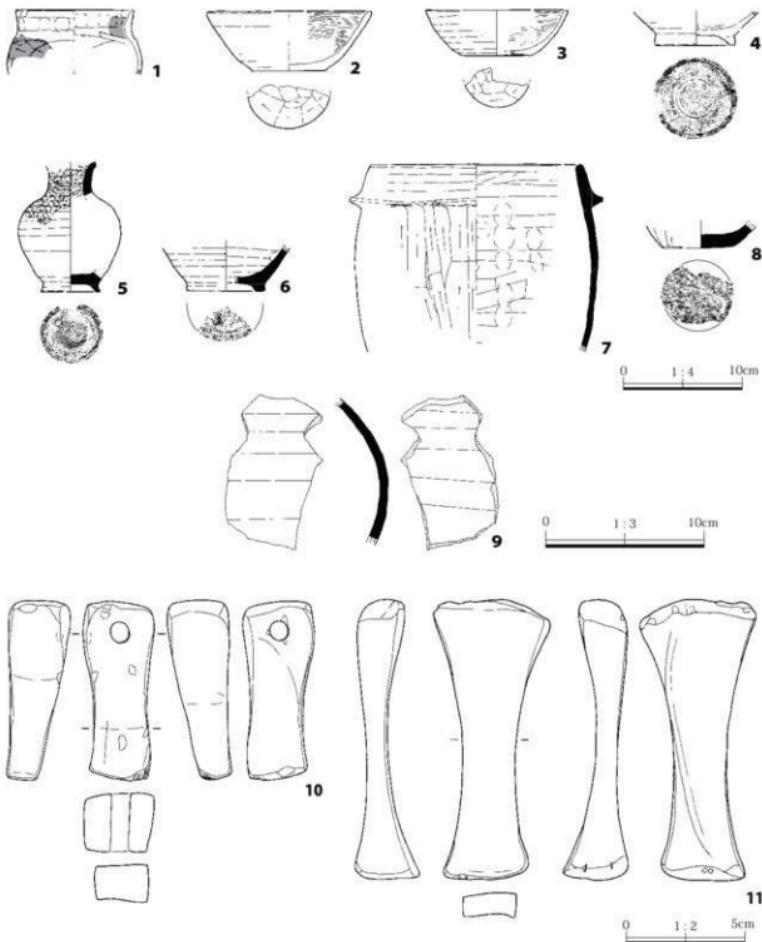


第261図 SI04カマド実測図(1/30)



第262図 SI04遺物出土状況図(1/60)

平されていると考えられる。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸台形を呈する。主軸は 2.62 m、副軸は 3.48 m、確認面からの深さは最深 27cm、床面積は 6.22m²を測る。 **主軸方位** N-14°-W **壁・壁溝** 壁高は東・北壁が 20cm、西・南壁が 15cm を測り、外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 直床式であるが、貼床や鋪み綿まりを確認できなかった。床面は地山の礫が露出しており凸凹がある。 **柱穴** P 1 が確認された。平面形は楕円形を呈し、長軸 41cm、短軸 29cm、床面からの深さ 14cm を測る。 **カマド** 南壁の中央東寄りに位置している。遺存状態はやや不良で、袖石や天井石が動いた状態である。全長は 70cm、煙道奥の石を入れると 87cm で、最大幅は 47cm 以上を測る。火床面は 14cm 挖り込まれるが、焼土部分は確認されなかった。 **その他の施設** 棚状施設らしきものが東壁で見られた。



第263図 S104出土遺物実測図(1/2・1/3・1/4)

床面から10cmの高さを測る。 **遺物検出状況** 床面から少し浮いた位置から多量の炭化材と焼土が出土している。北西隅部から中心に向かって倒れている柱材、住居の壁と平行している梁材、住居壁際に板材などが確認された。このうち第262図図2・炭14の2点で炭化材の樹種同定分析、同図炭11の1点で放射性炭素年代測定分析を行なった(第8編自然科学分析)。炭化材と同様に床面から少し浮いた位置から少量の土器片が出土している。南東部の壁際に集中しており、西壁際からは漆を貯蔵していたと考えられる第263図5の須恵器小型壺が出土している。

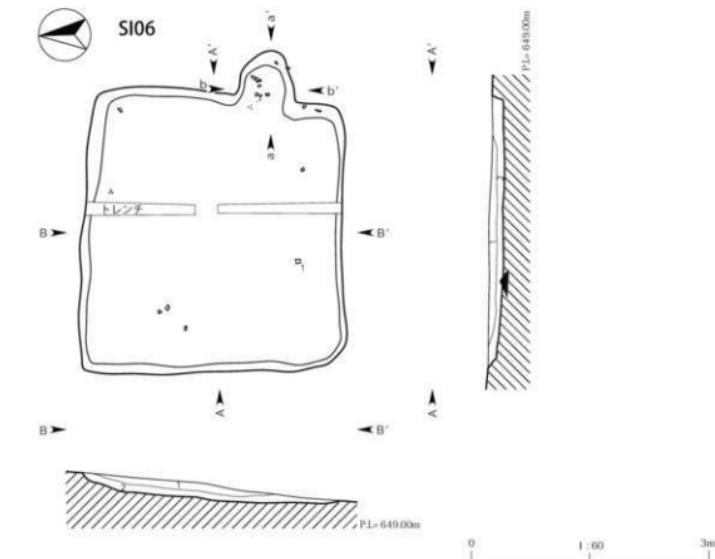
遺物 出土遺物のうち、土師器1点、土師質土器3点、須恵器5点、石製品

2点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、南壁にカマドをもつ小型の竪穴住居跡である。遺物の出土状況から廃絶後に上屋構造が燃えてしまった焼失住居と考えられ、炭化材の状態が良いことから土葺きの屋根であった可能性が高い。帰属時期は、出土遺物から10世紀前半と考えられる。

SI06 (第264～266図／PL 104・105・113)

位置 2-75区G・H-16グリッド(3・4区調査区中央部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 上部が削平されおり、壁面はほとんど現存していない。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。主軸は3.51m、副軸は3.32m、確認面からの深さは最深21cm、床面積は10.01m²を測る。 **主軸方位** N-89°-W **壁・壁溝** 壁高は東・西・北壁が10～15cm、南壁が5cmを測り、外傾して立ち上がる。壁溝は確認されていない。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締まりは確認できなかった。南東側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。北西部に人頭大・拳大の礫が露出ししている。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 東壁の南側に位置している。遺存状態は不良で、袖や天井などは残っておらず、わずかな焼土ブロックが確認されたのみである。全長は93cmで、最大幅は75cmを測る。火床面は5～10cm掘り込まれるが、焼土部分は確認されなかった。 **その他の施設** 確認されていない。

遺物検出状況 遺物量は少なく土器・石が住居跡全域の覆土中から散見された。カマドに若干の集中傾向が見られる。 **遺物** 土師器2点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、柱穴が確認されなかつたが形態から東壁にカマドをもつ小型の竪穴住居跡と判断した。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。



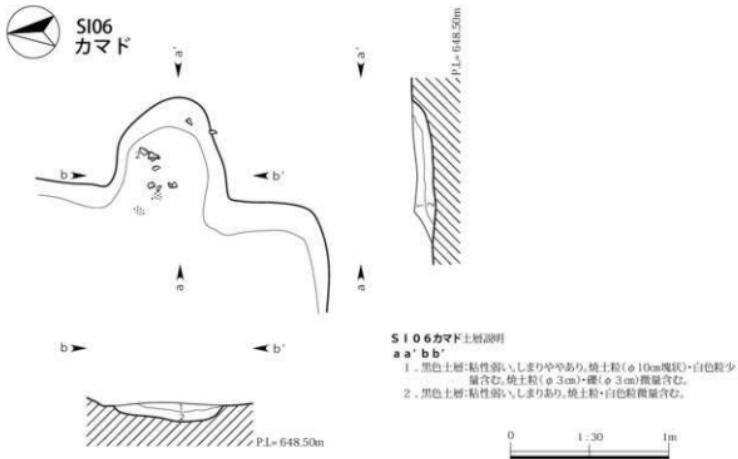
SI06土層説明

A'A'B'

1. 黒色土層：粘性弱く、しまりあり。炭化粒(Φ5mm)・燒土粒・白色粒(Φ5mm)微量含む。ローム粒ごく微量含む。鍾(拳大)あり。

2. 黑色土層：粘性弱く、しまりあり。燒土粒・白色粒少量含む。炭化粒(Φ5mm)・鍾(Φ5cm)微量含む。白色粒(Φ3cm)・燒土粒(Φ1cm)あり。

第264図 SI06実測図(1/60)



第265図 SI06カマド実測図(1/30)



第266図 SI06出土遺物実測図(1/3)

第5節 その他の遺構と遺物

(1) 焼土遺構

1号焼土遺構 (第267図 / P.L. 105)

位置 2-75区L-14グリッド(3・4区調査区中央部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基調であるが、下層に暗褐色土・黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。

平面形と規模 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸115cm、短軸63cm、確認面からの深さ45cmを測る。

主軸方位 N-70°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 南壁際に小さな窪みが見られるが、概ね平坦である。

遺物 なし。 **備考** 本遺構は、火を燃やした場所ではなく、焼土ブロックが流れ込んだものである。帰属時期は不明であるが、遺構確認した面が周囲よりも高く、隣に近世のヤッカラと考えられる遺構があることから、近世以降の可能性が高いと考えられる。

2号焼土遺構 (第268図 / P.L. 105)

位置 2-75区G-17グリッド(3・4区調査区西側南部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。

規模は長軸75cm、短軸69cm、確認面からの深さ8cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 南側に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、

火を燃やした場所ではなく、焼土ブロックが流れ込んだものである。帰属時期は不明であるが、やや離れた位置ではあるが同じ面から洪武通宝が出土していることから、中世以降の可能性が高いと考えられる。

3号焼土遺構（第268図／PL 105）

位置 2-75区F-17グリッド（3・4区調査区西部南側）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸60cm、短軸60cm、確認面からの深さ7cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がる。

底面 南側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、火を燃やした場所ではなく、焼土ブロックが流れ込んだものである。帰属時期は不明であるが、やや離れた位置ではあるが同じ面から洪武通宝が出土していることから、中世以降の可能性が高いと考えられる。

4号焼土遺構（第268図）

位置 2-75区F-17グリッド（3・4区調査区西部南側）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。

覆土 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸94cm、短軸75cm、確認面からの深さ11cmを測る。**主軸方位** N-34°-E。**壁面** 大きく外傾して立ち上がる。**底面** 南東側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。

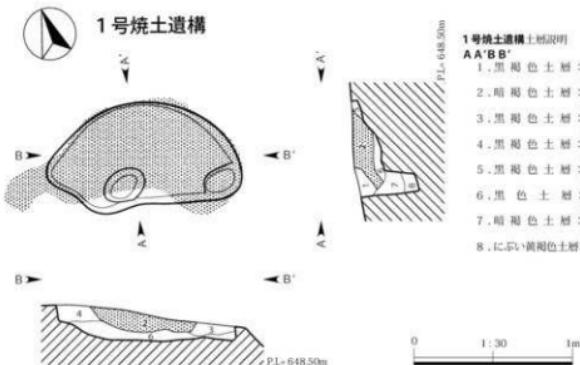
遺物 なし。**備考** 本遺構は、火を燃やした場所ではなく、焼土ブロックが流れ込んだものである。帰属時期は不明であるが、やや離れた位置ではあるが同じ面から洪武通宝が出土していることから、中世以降の可能性が高いと考えられる。

（2）土坑

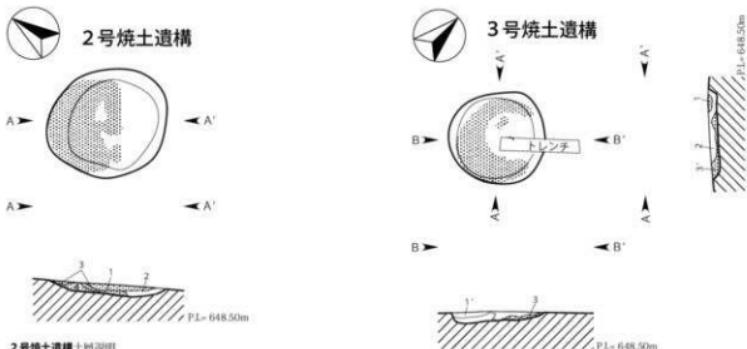
SK01（第269図）

位置 2-75区L-15グリッド（3・4区調査区中央部南側）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。

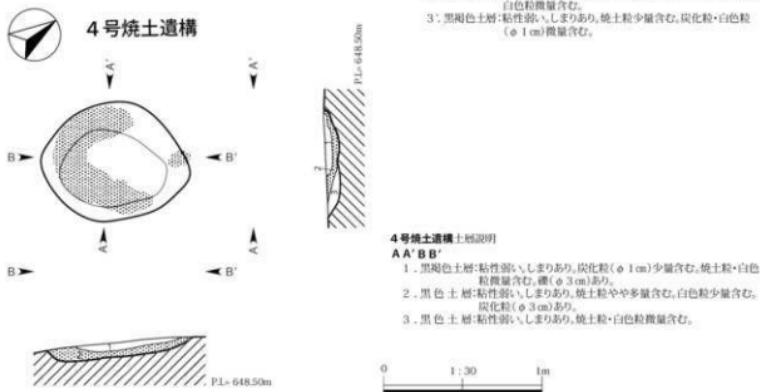
覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸132cm、短軸90cm、確認面からの深さ16cmを測る。**主軸方位** N-74°-E。**壁面** 南壁は内傾気味に、北壁はほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 地山の礫が露出し、凸凹する。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9



第267図 1号焼土遺構実測図(1/30)



2号焼土遺構 土層説明
A-A'
1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり。燒土粒・白色粒(φ 1cm)微量含む。
2. 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり。白色粒(φ 5mm)微量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり。燒土粒多量含む。白色粒微量含む。
4. 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり。燒土粒やや少量含む。白色粒微量含む。



第268図 2~4号焼土遺構位置図(1/60)・実測図(1/30)

世紀後半である可能性が高いと考えられる。

SK02 (第 269 図／PL 106)

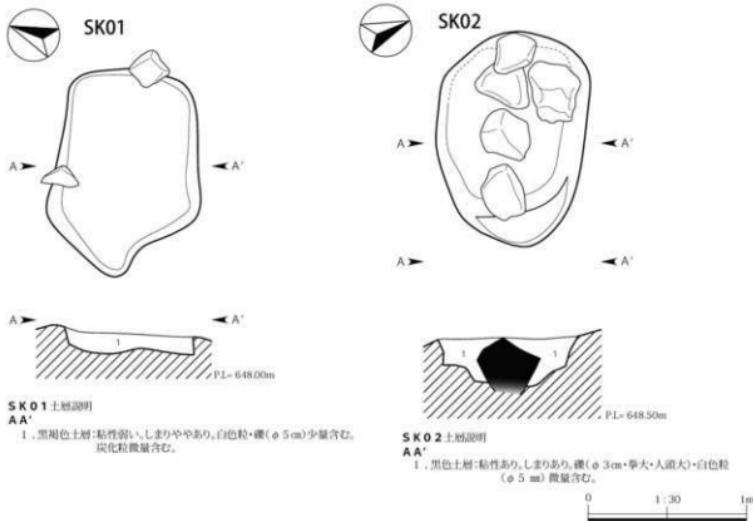
位置 2—75 区 L—14・15 グリッド (3・4 区調査区中央部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 人頭大の礫を含む黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 135cm、短軸 103cm、確認面からの深さ 52cm を測る。 **主軸方位** N—63°—W **壁面** 大きく外傾し、段を有する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 人頭大礫が複数出土しているが、周辺の地山に人頭大以上の礫が多い量に含まれていることから、地山中の礫の可能性がある。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格・帰属時期は不明であるが、複数の人頭大礫が出土していることから近世以降のヤックラの可能性が考えられる。

SK03 (第 270 図／PL 106)

位置 2—75 区 L・M—14 グリッド (3・4 区調査区中央部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 拳大～人頭大の礫を含む黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸 317cm、短軸 103cm、確認面からの深さ 66cm を測る。 **主軸方位** N—11°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 地山に含まれる直径 1m 以上の大岩の周りに、50cm 以上の岩が多量に投げ込まれていたが、岩を観察した所すべて自然石であった。岩をどこかして掘り下げる必要はないとの判断し、底面は確認しなかった。 **遺物** 地山に埋まっている 1m 以上の大岩の周りに多量の 50cm 大・人頭大・拳大の礫がかたまって出土している。その他に縄文土器片が出土したが、遺構に伴うものではないとの判断したため遺構外出土遺物に掲載している。 **備考** 本遺構は、岩がかたまって出土している状況からヤックラと考えられる。帰属時期は不明であるが、近世以降の可能性が高いと考えられる。



第269図 SK01・02実測図(1/30)

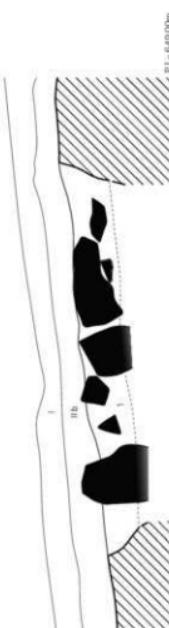


SK03



A'

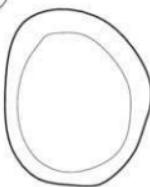
A



PL=64000m



SK08



A

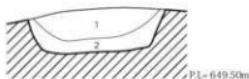
A'

**SK03 土壌説明
AA'**

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、礫(ϕ 3 cm)やや多量含む。炭化粒(ϕ 3 mm)微量含む。
- 1b. 黒色土層: 粘性あり、しまりあり、ロームブロック切(ϕ 5 mm)・炭化粒(ϕ 5 mm)・酸化鉄粒・白色粒(ϕ 3 mm)微量含む。礫(拳大)あり。
1. 黒褐色土層: 粘性ややあり、しまりややあり、礫(ϕ 50cm ~ 1 m)多量含む。礫(拳大)・白色粒微量含む。

**SK08 土壌説明
AA'**

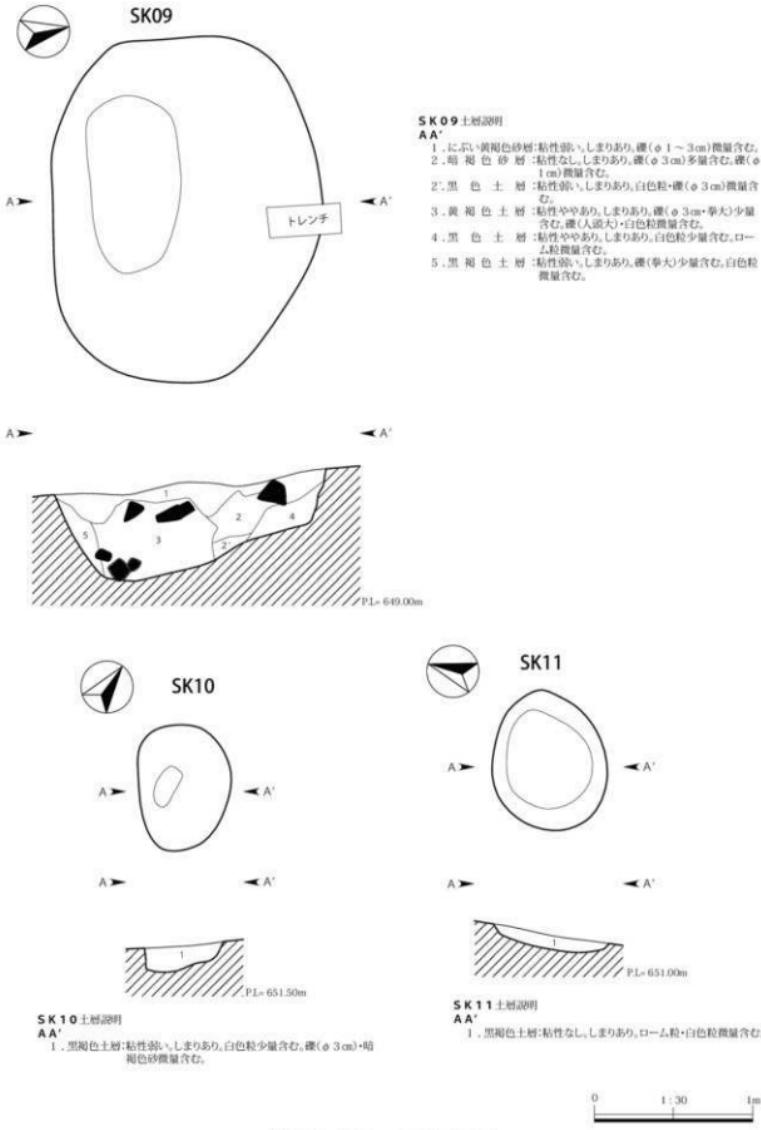
1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、白色粒・礫(ϕ 1 cm)微量含む。
2. 黑色土層: 粘性ややあり、しまりあり、白色粒(粒・ ϕ 1 cm)微量含む。



PL=64950m



第270図 SK03・08実測図 (1/30)



第271図 SK09~11実測図(1/30)

SK08 (第 270 図 / PL 106)

位置 2-75 区 D-15・16 グリッド (3・4 区調査区西部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 110cm、短軸 93cm、確認面からの深さ 31cm を測る。 **主軸方位** N-33°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 土器片が出土したが、図示し得るものではなかった。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定できる遺物が出土していないことから、性格・帰属時期は不明である。

SK09 (第 271 図)

位置 2-75 区 D・E-16 グリッド (3・4 区調査区西部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 上層にはいぶし黄褐色砂・暗褐色砂・黄褐色土、下層は黒色土・黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 216cm、短軸 170cm、確認面からの深さ 74cm を測る。 **主軸方位** N-82°-W **壁面** 南壁は外傾して立ち上がる。北壁は下位が大きく外傾し、テラス状を呈した後、外傾して立ち上がる。 **底面** 南側に向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考**

本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから、性格・帰属時期は不明である。

SK10 (第 271 図)

位置 2-75 区 E・F-12 グリッド (3・4 区調査区中央部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 80cm、短軸 57cm、確認面からの深さ 26cm を測る。 **主軸方位** N-40°-W **壁面** 南・西壁はほぼ垂直に立ち上がる。東・北壁は下位が大きく外傾し、上位が外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。

遺物 なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから、性格・帰属時期は不明である。

SK11 (第 271 図)

位置 2-75 区 E・F-13 グリッド (3・4 区調査区中央部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 90cm、短軸 73cm、確認面からの深さ 18cm を測る。 **主軸方位** N-68°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。

底面 中央に向かって緩やかに傾斜している。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから、性格・帰属時期は不明である。

(3) ピット (第 226・227 図)

今回の発掘調査では、ピットは 9 基確認された。3・4 区調査区の北西部に集中しているが、数が少なく並ぶものは確認されなかった。P3・P4 は SD05 を掘り込んでいることが確認された。縄文時代中期～後期よりも新しいと考えられるが、明確な時期は判断できない。他のピットも同様と考えられる。全てのピットの平面形や規模などの諸属性は、第 34 表に記載した。

第 34 表 上原IV遺跡IVピット観察表

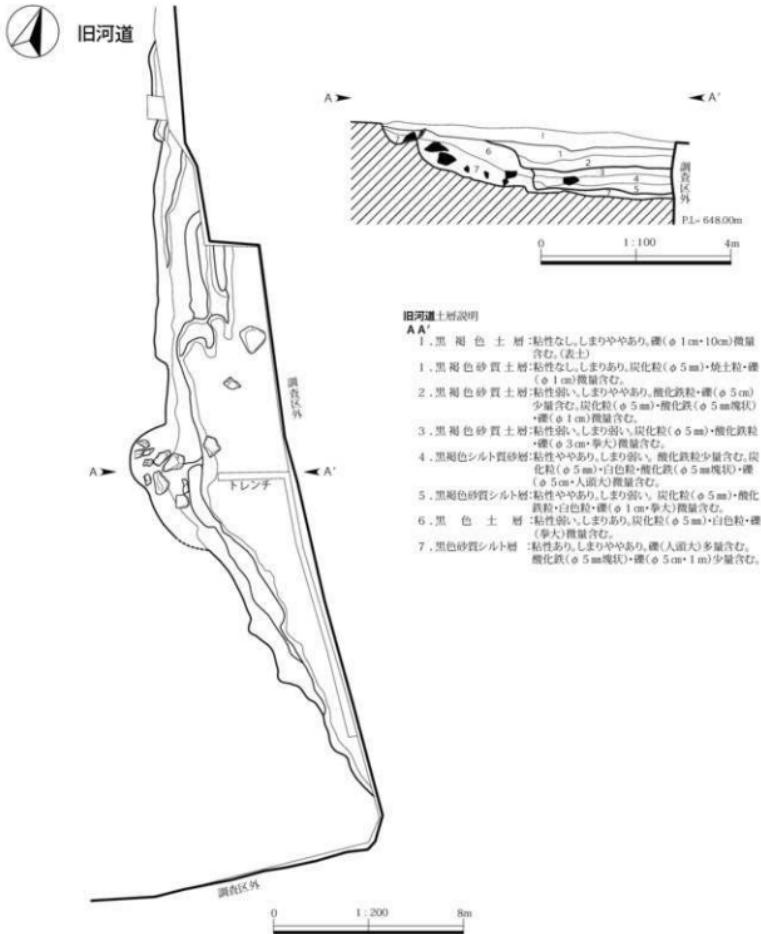
遺構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	備考	遺構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ						長軸長	短軸長	深さ		
P01	2-75 区 A-13	楕円形	35	27	49	B		P06	2-75 区 D-12	楕円形	40	35	20	B	
P02	2-75 区 A-13	楕円形	32	28	20	B		P07	2-75 区 G-10	円形	50	50	23	B	
P03	2-75 区 B-13	円形	40	35	28	A		P08	2-75 区 G-11	不規則形	60	55	17	B	
P04	2-75 区 C-13	円形	34	33	22	A		P09	2-75 区 G-11	楕円形	96	75	19	B	
P05	2-75 区 E-13	円形	30	30	21	A									

*A : 黒色土 B : 黒褐色土 C : 暗褐色土 D : 褐色土 E : にいぶし黄褐色土

(4) 旧河道 (第272図)

位置 2-75区O-9~S-15グリッド(3・4区調査区東部東壁際)。重複関係なし。遺存状態

南北とも調査区外に延び、東壁も調査区外となるが、概ね良好である。覆土 本遺構は掘り直されて使用された痕跡がある。6・7層は自然に形成された河道、3~5層は掘り直した1回目の河道、1・2層は更に掘り直した2回目の河道と考えられる。6・7層は黒色土でシルトに近く、1~5層は黒褐色砂質土が基調で、小礫を含んでいる。堆積状況は自然堆積を示す。規格 長さは32.7m以上、幅は40cm~6.5m以上である。



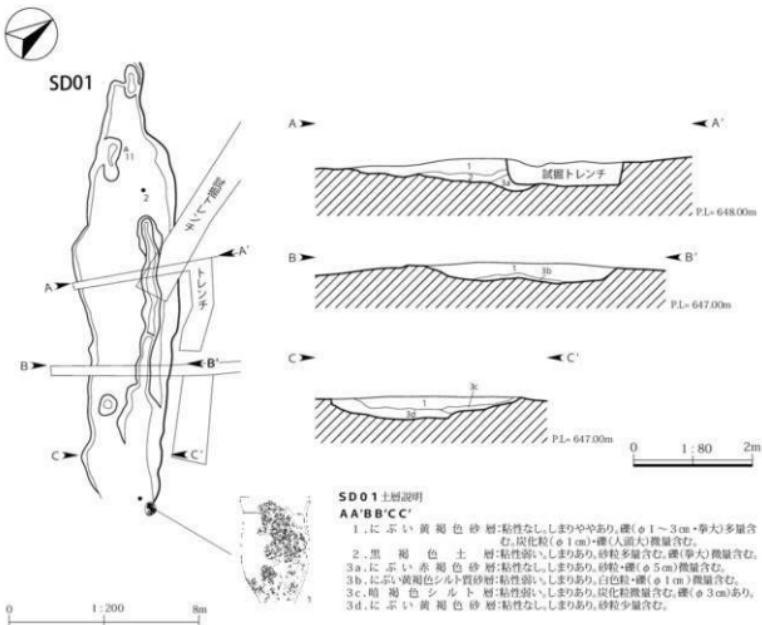
第272図 旧河道実測図(1/100・1/200)

確認面からの深さは8~84cmを測る。 **主軸方位** N-37°-W **遺物** 繩文土器片・土師器片が出土した。繩文土器1点を図示したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載している。 **備考** 本遺構は、北西-南東方向に走る旧河道である。一度埋まった後に2回にわたって掘り直していたことが確認された。一番古い河道の底面まで掘り下げた所、少量はあるが常に水が流れている状態であった。現在も一段低くなつていて湿っぽい場所であることから、王城山の伏流水が流れてきている場所と考えられる。最初の河道・掘り直した河道のいずれも帰属時期は不明である。しかし、最初の河道の覆土上層から土師器片が出土していることから、平安時代にはあらかじめ埋設しており、それ以降に掘り直されたものと考えられる。

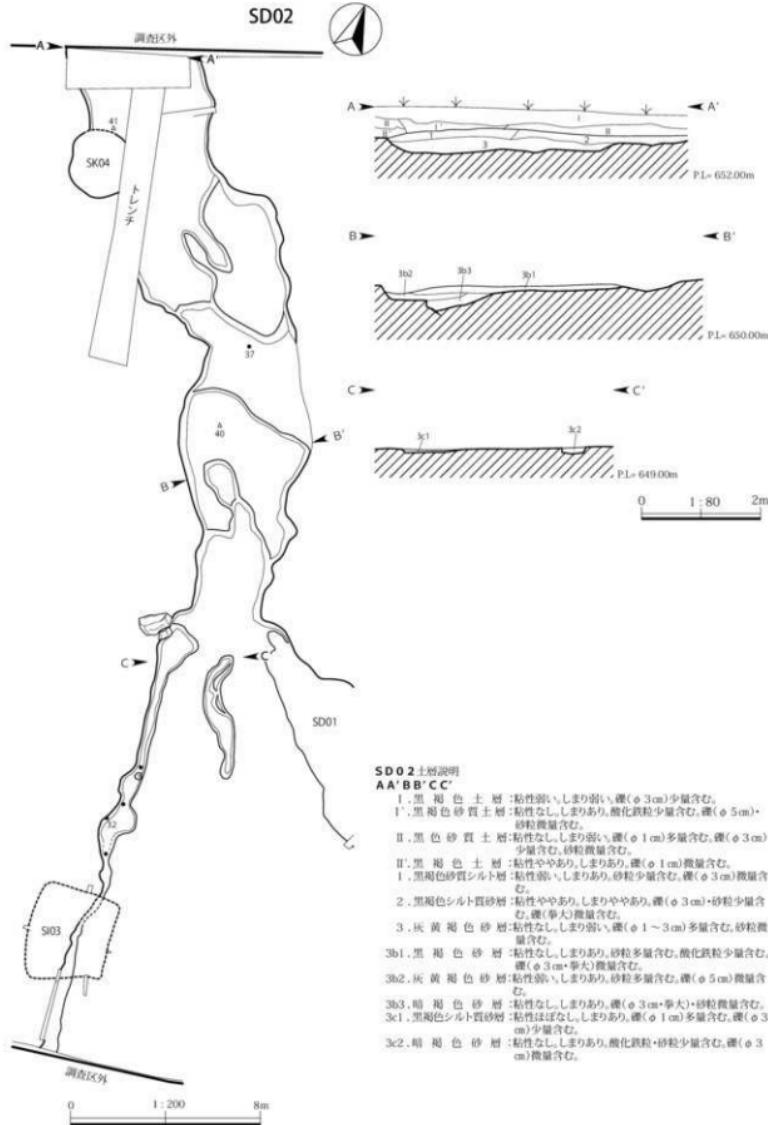
(5) 自然流路

SD01 (第273・275図／PL 106・113)

位置 2-75区N-13~Q-15グリッド(3・4区調査区東部南側)。 **重複関係** 重複する遺構はないが、SD02から派生するものである。 **遺存状態** 良好。 **覆土** にぶい黄褐色砂が基調で、黒褐色シルト質砂が一部堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **規模** 長さは18.7m確認され、幅は1.5m~4.2m、確認面からの深さ14~87cmを測る。 **主軸方位** N-54°-W **遺物** 繩文土器片が少量出土しているほか、第275図1が南端部東壁際で出土している。繩文土器10点、石鐵1点を図示した。 **備考** 本遺構は、明確な掘り込みがないこと、直線的ではないことから、傾斜に従って北西-南東に走る自然流路と判断した。帰属時期は不明であるが、出土遺物から縄文時代中期に形成された可能性が高いと考えられる。

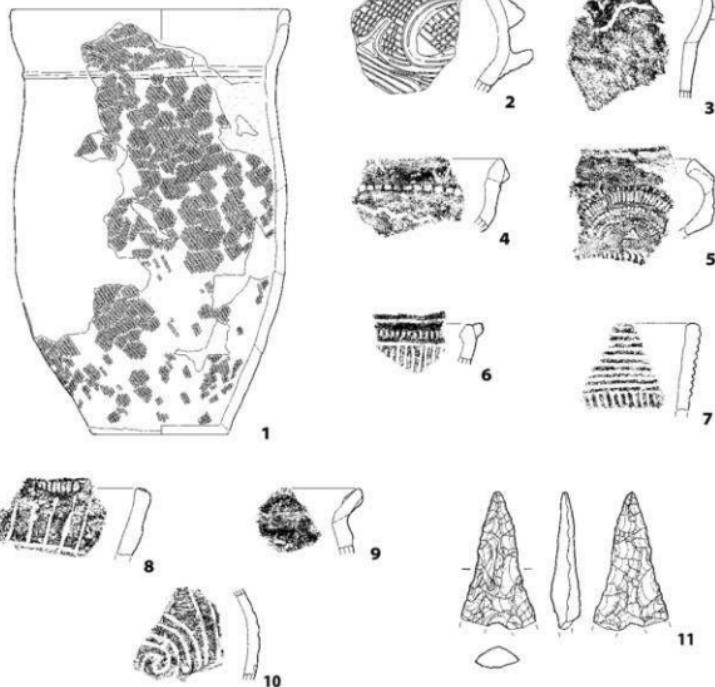


第273図 SD01実測図(1/80・1/200)

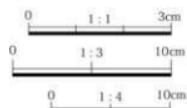
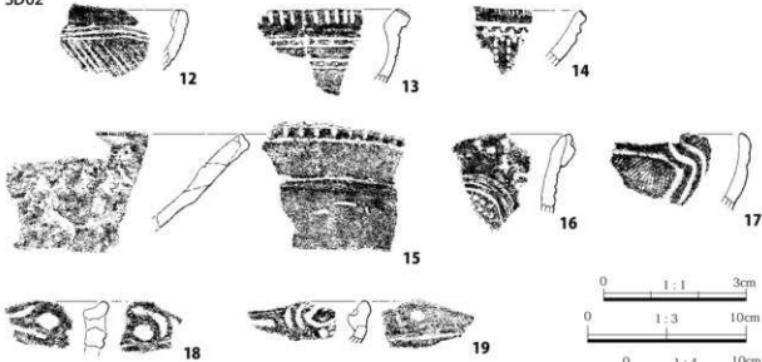


第274図 SD02実測図(1/80・1/200)

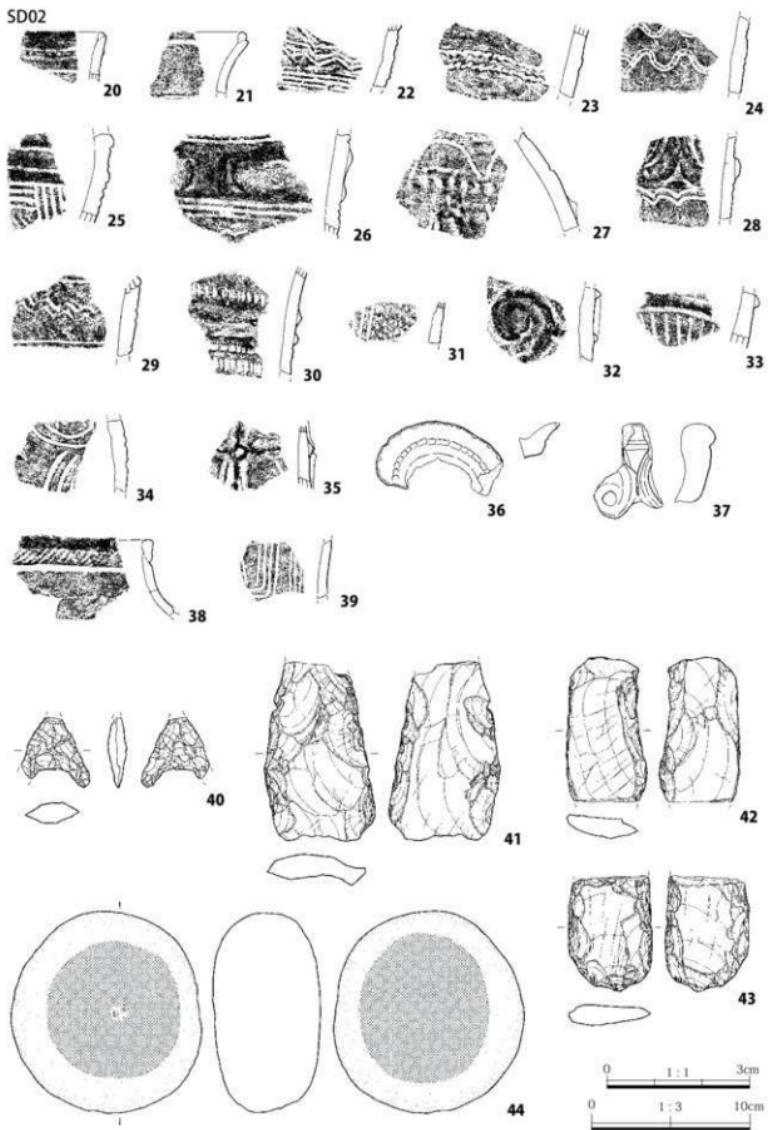
SD01



SD02



第275図 自然流路出土遺物実測図①(1/1・1/3・1/4)



第276図 自然流路出土遺物実測図②(1/1・1/3)

SD02 (第 274 ~ 276 図／PL 106・113・114)

位置 2—75 区 K・L—9～M・N—17 グリッド (3・4 区調査区東部北壁～南壁)。 **重複関係** SK03、SK04 と重複し、本遺構は SK03 より古く、SK04 よりは新しいと考えられる。 **遺存状態** 南北とも調査区外に延び、概ね良好である。 **覆土** 上層は黒褐色シルト質砂、下層は黄褐色・暗褐色・黒褐色の砂が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **規模** 長さは直線距離で 42.0 m 以上、幅は 20cm～5.7 m、確認面からの深さ 12cm～61cm を測る。 **主軸方位** N—15°—W **遺物** 北側の幅の広い場所から多量の縄文土器片が出土している。縄文土器 28 点、石礫 1 点、打製石斧 3 点、磨石 1 点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、明確な掘り込みがないこと、直線的ではないことから、傾斜に従って北北西—南南東に走る自然流路と判断した。帰属時期は不明であるが、出土遺物から縄文時代中期に形成された可能性が高いと考えられる。

SD03 (第 277・279 図／PL 106・114)

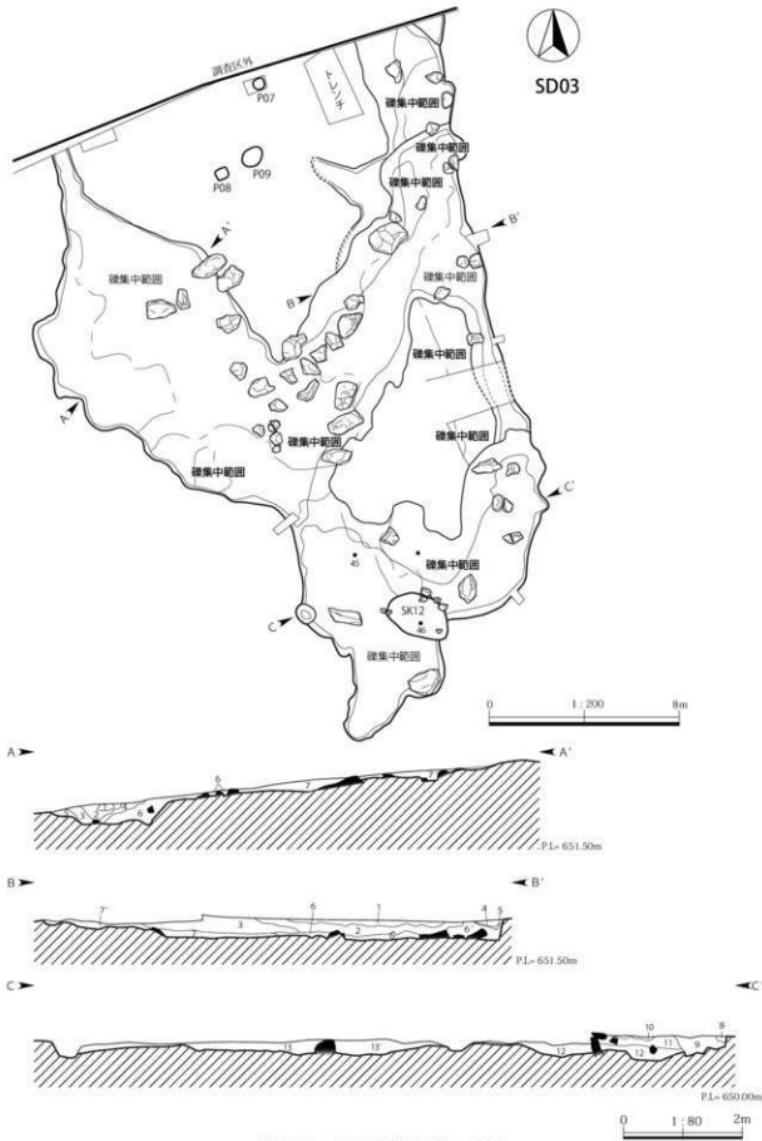
位置 2—75 区 F—11～I—10 グリッドから H—16 グリッド (3・4 区調査区中央部)。 **重複関係** SK12 と重複し、本遺構の方が古いと考えられる。 **遺存状態** 北部は調査区外に延びるが、概ね良好である。 **覆土** 暗褐色・黒褐色土が基調であるが、下層にぶい黄褐色砂質土が含まれている。堆積状況は自然堆積を示す。 **規模** 長さは直線距離で 30.5 m 以上、幅は 20cm～80cm、確認面からの深さ 23～80cm を測る。 **主軸方位** N—7°—E **遺物** 縄文土器片が微量出土しており、2 点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、掘り込みが認められるものの直線的でないことから、斜面に従って北北西—南南東方向に走る自然流路と判断した。北側の斜面上位部分では 2 条あったものが本調査区内で合流し、1 条になって収束している。西側の流路跡は、北側が細くなっているが隣接する事業団の調査では幅広のものが確認されている。帰属時期は不明であるが、出土遺物から縄文時代中期以降に形成された可能性が高いと考えられる。

SD04 (第 278・279 図／PL 114)

位置 2—75 区 L—17 グリッド (3・4 区調査区中央部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南部は調査区外に延びるが、概ね良好である。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **規模** 長さは 3.8 m 以上、幅は 2.4 m、確認面からの深さ 30～90cm を測る。 **主軸方位** N—10°—W **遺物** 縄文土器片、石が出土しており、縄文土器 4 点を図示し得た。 **備考** 円形のプランが確認されたため、縄文時代の堅穴住居跡の可能性を想定し掘り下げを行なったが、底面が南に傾斜することや岩が突き出していることが確認された。その結果、堅穴住居跡ではなく自然流路と判断した。帰属時期は不明であるが、出土遺物から縄文時代中期以降には形成されていた可能性が高いと考えられる。

SD05 (第 279・280 図／PL 106・114)

位置 2—75 区 A～C—12 から C—17 グリッド (3・4 区調査区西部)。 **重複関係** SK05・06 と重複する。新旧関係は不明であるが、本遺構の方が古いと考えられる。 **遺存状態** 南北ともに調査区外に延びるが、概ね良好である。 **覆土** 北側は黒褐色砂質シルトが基調である。南側は暗褐色砂と黒褐色のシルトに近い土が互層をなしている。堆積状況は自然堆積を示す。 **規模** 長さは直線距離で 25.5 m 以上、幅は 4.4 m～11.2 m、確認面からの深さ 55～90cm を測る。 **主軸方位** N—10°—W **遺物** 縄文土器片が少量出土しており、8 点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、明確な掘り込みがないこと、直線的ではないことから、斜面に従って北—南方向に走る自然流路と判断した。北側の斜面上位部分では 2 条あったものが、本調査区内で合流し、1 条になっている。西側の流路跡は隣接する事業団調査区では見られなかった。帰属時期は不明であるが、出土遺物から縄文時代後期に形成されていた可能性が高いと考えられる。



第277図 SD03実測図(1/80・1/200)

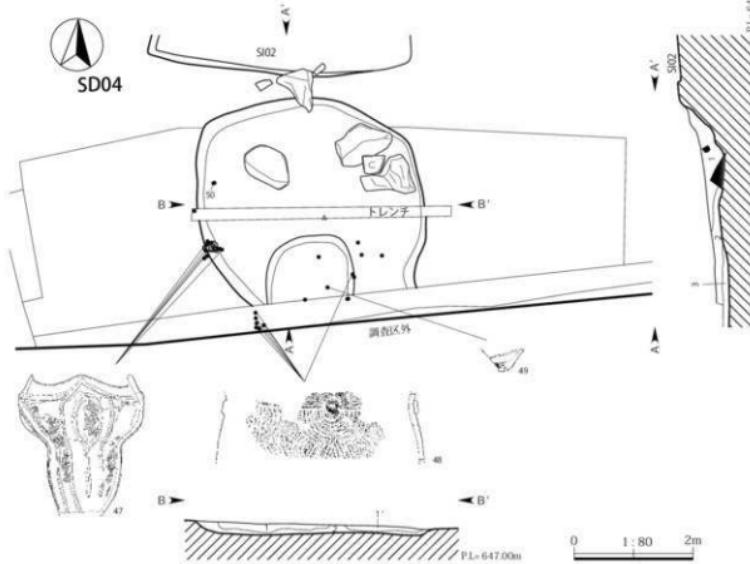
SD03 土層説明

AA'

- 暗褐色砂質土層:粘性なし。しまりあり。にふる黄褐色色少量含む。白色粒・礫(ø 5cm)微量含む。
- 黒褐色砂質土層:粘性なし。しまりあり。白色鉱石(ø 5mm)・白色粒微量含む。にふる黄褐色少く微量含む。礫(ø 5cm)あり。
- 黒 色 土 層:粘性なし。しまりあり。白色粒(ø 5mm)・白色粒微量含む。礫(ø 3cm)微量含む。
- 暗褐色砂質土層:粘性なし。しまりあり。にふる黄褐色少量含む。白色粒・礫(ø 1cm)少量含む。礫(ø 3cm)微量含む。
- 黒褐色砂質土層:粘性なし。しまりあり。白色粒(ø 5mm)・白色粒微量含む。礫(ø 3cm)微量含む。
- 黒褐色砂質土層:粘性弱い。しまりあり。白色粒・にふる黄褐色少量含む。白色粒(ø 5mm)・礫(ø 3cm・掌大)微量含む。
- 黒褐色砂質土層:粘性弱い。しまりあり。白色粒少量含む。にふる黄褐色(ø 5mm)・礫(ø 1cm)微量含む。
- 黒褐色砂質土層:粘性なし。しまりあり。白色粒(ø 5mm)・礫(ø 1cm)微量含む。にふる黄褐色少く微量含む。礫(掌大)あり。

B'C' C'

- 褐 色 土 層:粘性なし。しまりあり。地塗土少量含む。白色粒(ø 5mm)・礫(ø 1~3cm)微量含む。埴土(ø 5cm塊状)あり。
- 黑 褐 色 土 層:粘性弱い。しまりあり。白色粒(ø 5mm)・ローム・埴土(ø 3cm塊状)・明黄褐色砂(ø 1cm)微量含む。礫(ø 1cm)あり。
- 黑 色 土 層:粘性弱い。しまりあり。白色粒微量含む。礫(ø 20mm)・明黄褐色砂(ø 5mm)あり。
- 褐 色 土 層:粘性弱い。しまりあり。白色粒微量含む。砂粒微量含む。
- 暗褐色シルト質砂層:粘性弱い。しまりあり。黒褐色シルト質の微量含む。
- 黒 褐 色 土 層:粘性弱い。しまりあり。白色粒(ø 5mm)・砂粒少量含む。ローム・埴土・白色粒(ø 5mm)微量含む。明黄褐色砂(ø 5mm)あり。
- 黒 褐 色 土 層:粘性弱い。しまりあり。白色粒(ø 5mm)・砂粒少量含む。白色粒(ø 5mm)・礫(ø 1cm・掌大)少量含む。
- 黑 褐 色 土 層:粘性弱い。しまりあり。白色粒(ø 5mm)・砂粒少量含む。白色粒(ø 5mm)・礫(ø 1cm・掌大)微量含む。明黄褐色砂(ø 5mm)あり。
- 黑 褐 色 土 層:粘性弱い。しまりあり。白色粒(ø 5mm)・砂粒少量含む。白色粒(ø 5mm)・礫(ø 1cm)微量含む。
- 褐 色 土 層:粘性弱い。しまりあり。白色粒少量含む。白色粒(ø 1cm)・明黄褐色砂(ø 5mm)・礫(掌大)微量含む。
- 暗褐色シルト質砂層:粘性弱い。しまりあり。白色粒(ø 5mm)微量含む。
- 黑 褐 色 土 層:粘性弱い。しまりあり。礫(ø 5mm)微量含む。
- 黑 褐 色 土 层:粘性弱い。しまりあり。礫(ø 3cm)微量含む。
- 黑 褐 色 土 层:粘性弱い。しまりあり。白色粒微量含む。明黄褐色砂(ø 5mm)・礫(掌大)微量含む。
- 黑 褐 色 土 层:粘性弱い。しまりあり。白色粒(ø 5mm)・白色粒(ø 5mm)・白色粒微量含む。白色粒(ø 5mm)・礫(ø 5cm)微量含む。白褐色石(ø 5mm)あり。

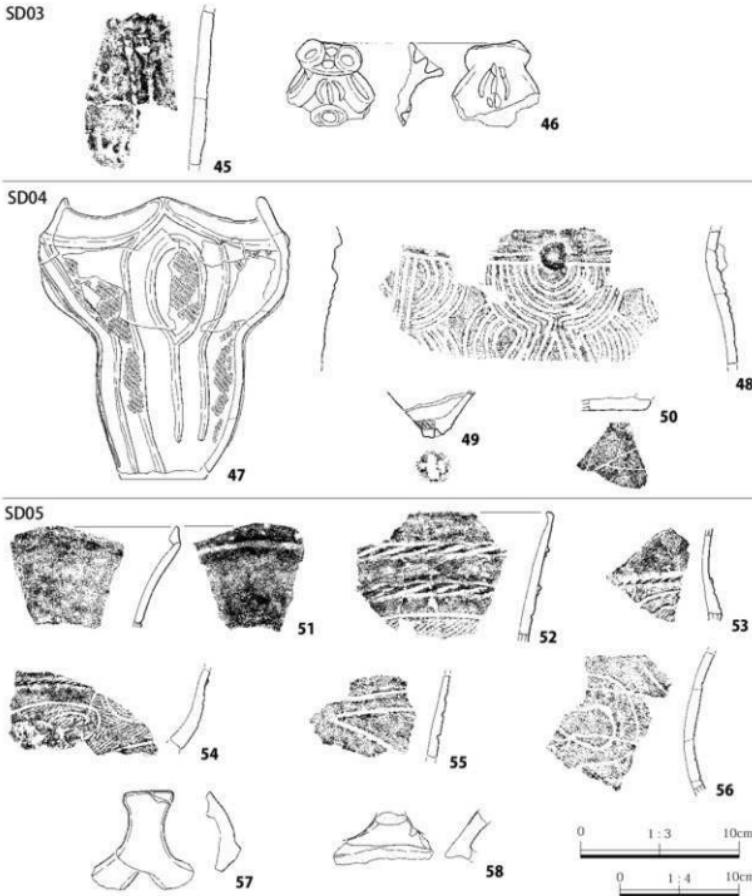


SD04 土層説明

AA' BB'

- 黒色土層:粘性ややあり。しまりややあり。褐色色多量含む。礫(掌大)微量含む。礫(人頭大)あり。
- 黒色土層:粘性ややあり。しまりややあり。褐色色少量含む。礫(ø 5mm)微量含む。
- 黒色土層:粘性あり。しまり弱い。黒褐色砂粒・礫(ø 3cm)微量含む。
- 黒色土層:粘性あり。しまりあり。礫(ø 1cm)微量含む。

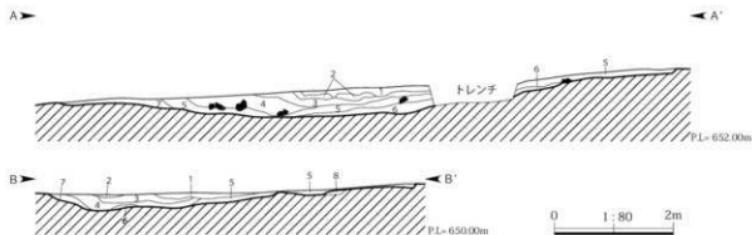
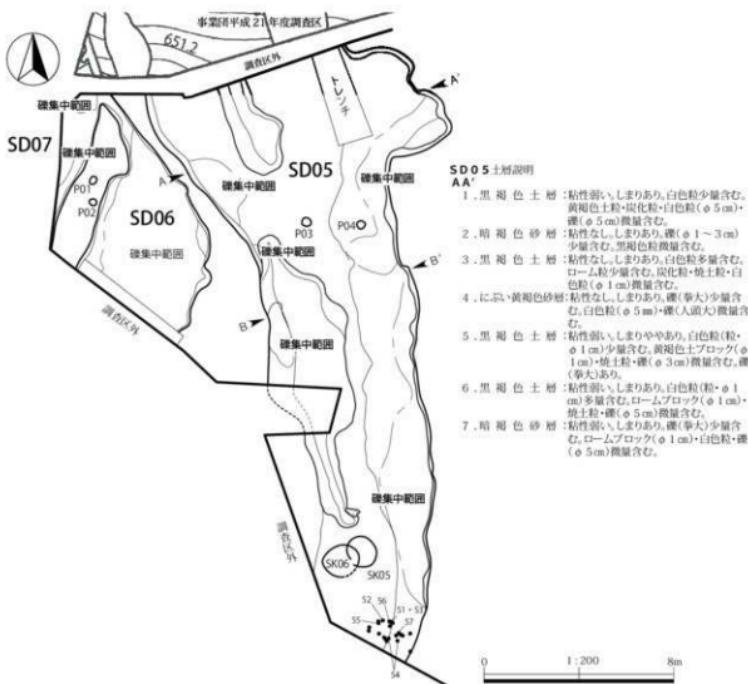
第278図 SD04実測図(1/80)



第279図 自然流路出土遺物実測図③(1/3+1/4)

SD06 (第280図/P L 106)

位置 2-75 区 A-12 ~ 2-74 区 T-14 グリッド (3・4区調査区北西隅部)。 **重複関係** 北側で SD07 と繋がっているが、新旧関係は不明である。 **遺存状態** 南北ともに調査区外に延びるが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **規模** 長さは直線距離で 10.5 m 以上、幅は 50cm ~ 5.8 m、確認面からの深さ 18 ~ 33cm を測る。 **主軸方位** N-15°-W **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、明確な掘り込みがないこと、直線的ではないことから、北-南方向に走る自然流路と判断した。出土遺物がないことから帰属時期は不明であるが、他の自然流路と同時期の縄文時代中期～後期にかけて形成された可能性が高いと考えられる。



SD05 土層説明

- BB' 土層説明
1. 黒褐色土層：粘性弱い・しまりあり。白色粒（φ 1cm）少量含む。燒土粒・白色粒・礫（φ 3cm・拳大）微量含む。
 2. にぶい 黄褐色砂層：粘性弱い・しまりあり。炭化粒（φ 5cm）微量含む。
 3. 黑褐色土層：粘性弱い・しまりあり。暗褐色砂少量含む。黄褐色土粒・燒土粒・白色粒（φ 1cm）・礫（φ 5cm）微量含む。
 4. 黑褐色土層：粘性弱い・しまりあり。黃褐色土粒・礫（φ 1~3cm）微量含む。
 5. 黑褐色砂質土層：粘性なし・しまりあり。白色粒（φ 5cm）微量含む。礫（拳大）あり。
 6. 黑褐色土層：粘性なし・しまりあり。ローム粒微量含む。
 7. 暗褐色砂層：粘性なし・しまりあり。礫（φ 5cm）微量含む。燒土粒・礫（拳大）微量含む。
 8. 暗褐色砂層：粘性なし・しまりあり。礫（φ 5cm）微量含む。白色粒・礫（φ 5cm）微量含む。

第280図 SD05~07実測図(1/80・1/200)

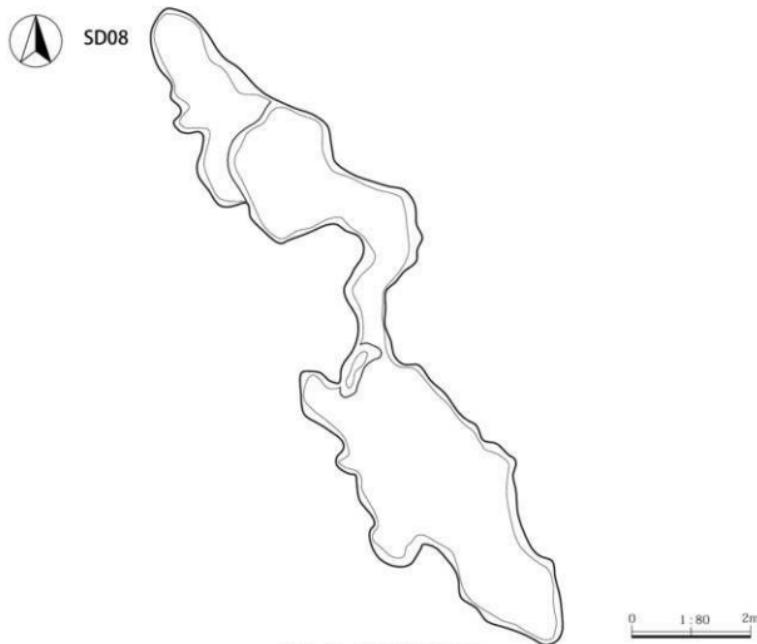
SD07 (第280図/P L 106)

位置 2-74区T-12~2-75区A-12から2-74区T-13グリッド(3・4区調査区北西隅部)。

重複関係 北側でSD06と繋がっているが、新旧関係は不明である。**遺存状態** 南北とも調査区外に延び、西壁も調査区外にあるが、概ね良好である。**覆土** 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。**規模** 長さは直線距離で6.8m、幅は10cm~1.5m、確認面からの深さ15~23cmを測る。**主軸方位** N-11°-E **遺物** なし。**備考** 本遺構は、明確な掘り込みがないこと、直線的ではないことから北東-南西方向に走る自然流路と判断した。出土遺物がないことから縄文時代中期~後期にかけて形成された可能性が高いと考えられる。

SD08 (第281図)

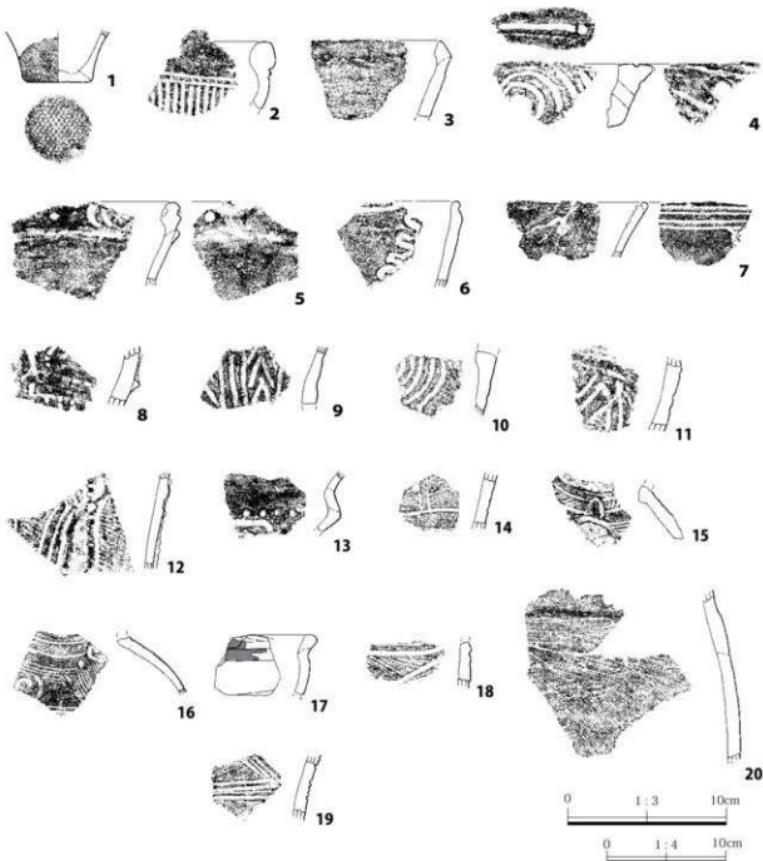
位置 2-75区F-15~G-17グリッド(3・4区調査区西隅南側)。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。**規模** 長さは直線距離で12.5m、幅は50cm~2.8m、確認面からの深さ15~23cmを測る。**主軸方位** N-32°-W **遺物** なし。**備考** 本遺構は、明確な掘り込みがないこと、直線的ではないことから北西-南東方向に走る自然流路と判断した。出土遺物がないことから縄文時代中期~後期にかけて形成された可能性が高いと考えられる。



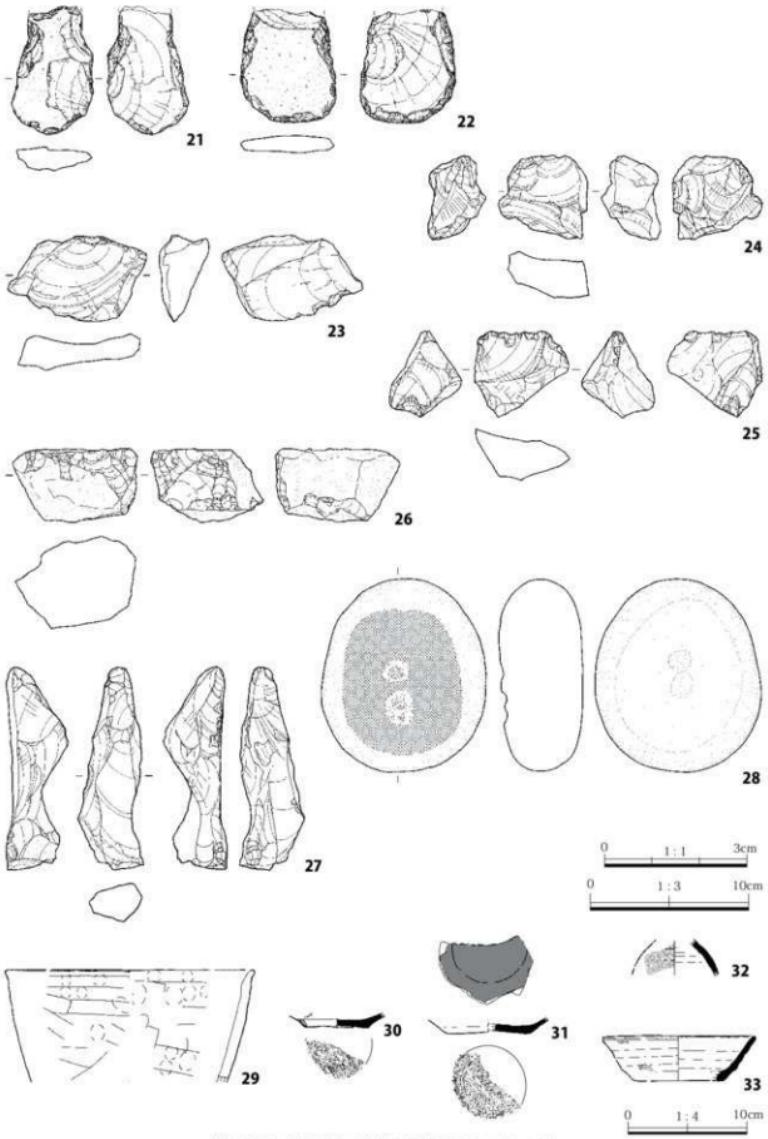
第281図 SD08実測図(1/80)

第6節 遺構外出土遺物 (第282～284図／PL 115)

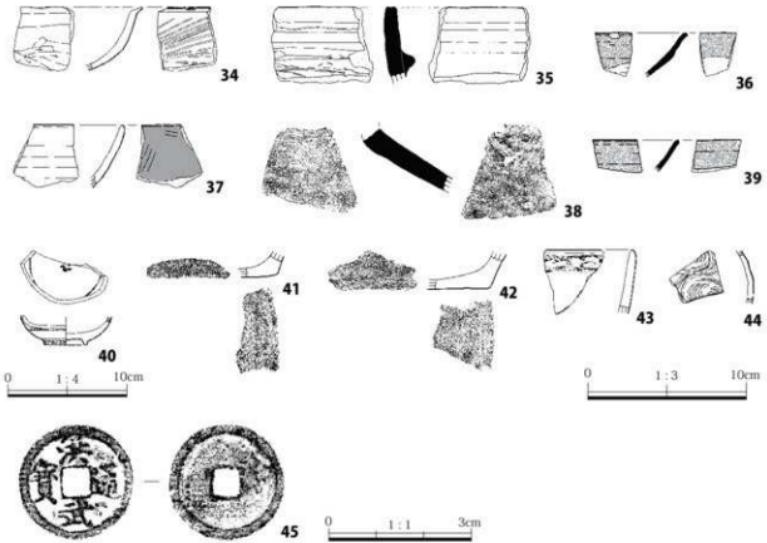
ここでは、調査区表土および確認面出土遺物、遺構内の流れ込み遺物、試掘トレンチ出土遺物を掲載する。遺構外出土遺物は、石器のほか縄文時代中期・後期土器、弥生時代前期・中期土器、平安時代土師器・須恵器、中世錢貨、中世陶磁器と長期間にわたる遺物が出土している。



第282図 遺構外出土遺物実測図①(1/3・1/4)



第283図 遺構外出土遺物実測図②(1/1・1/3・1/4)



第284図 遺構外出土遺物実測図③(1/1・1/3・1/4)

第5章まとめ

今回発掘調査を行なった上原IV遺跡IVでは、縄文時代中期～後期の土坑5基、縄文時代後期の敷石住居跡1軒、縄文時代後期～晩期の遺物包含層1か所、古墳時代後期の竪穴住居跡2軒、平安時代の竪穴住居跡4軒、時期不明の焼土遺構4基、土坑7基、ピット9基、旧河道1条、自然流路8条が確認された。平安時代の集落が主体となる複合遺跡であり、王城山山麓際の緩斜面上に立地している。3・4区調査区北側は、1m以上の大岩や人頭大以上の礫を多く含む山の崩落が地山となっており、土坑・ピットがわずかに確認されたのみで遺構密度は低い。北側の事業団平成21年度調査区も同様で、土坑・ピットがわずかに確認されたのみであった。西側は、1区・2区調査区のトレント調査で押手沢の旧流路が確認された。このことから、集落域は北側・西側へは広がらないものと考えられる。東側・南側は緩斜面が延びており、それぞれ上原I遺跡、林中原I遺跡へと続いている。東側の上原I遺跡からは縄文時代前期～中期、平安時代の竪穴住居跡が確認されているが、本遺跡との間には、現在水田として利用されている低い土地があり、そこに古い小河川が流れていることが確認された。本遺跡と上原I遺跡との間には地形的な隔たりがあった可能性も考えられる。南側の林中原I遺跡では、本調査区に近い町教委の発掘調査地点からは縄文時代中期～後期の竪穴住居跡が確認されたが、古墳時代・平安時代の竪穴住居跡は確認されていない。よって縄文時代後期の集落が南へ広がる可能性が考えられる。

縄文時代の遺構・遺物では、3・4区調査区南西部で敷石住居跡が1軒(SI05)確認された。敷石住居跡の南側には、縄文時代後期～晩期の遺物包含層が確認され、緩やかな窪地になっていたと考えられる。この包含層からは、小型の細長い石棒が1点出土している。西側に隣接する事業団平成15年度調査区では、4軒の敷石住居跡が確認され、その内の堀之内2式土器が出土した3号住居跡から同様の形状の石棒1点が出土している((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008)。このような状況から、確認された敷石住居跡は同一の集

落と考えられる。わずかな窪地を巡るように南側へ敷石住居跡が展開している可能性が考えられる。調査範囲の南側は緩斜面が続いており、集落域はさらに広がるものと思われる。自然流路が8条確認され、そのうちのSD01～05で縄文土器片が出土した。出土した遺物は縄文時代中期の五領ヶ台II式・阿玉台Ia式が主体で、本遺跡で確認された敷石住居跡・遺物包含層の後期～晚期とは異なる。斜面上方に位置する上原II遺跡は同じ五領ヶ台II式・阿玉台Ia式が主体であることから、自然流路の遺物は上原II遺跡から土砂とともに流れて来たものが多いと考えられる。

古墳時代後期の遺構は、3・4区調査区中央南側で竪穴住居跡2軒が確認された。西側の1軒(SI07)からは、甕・瓶・壺・杯のほぼ完形品がまとめて出土しており、器種組成を把握するうえで良好な資料と考えられる。

平安時代の遺構は、竪穴住居跡4軒が確認された。分布状況は3・4区調査区中央東部南側で2軒(SI02・03)、中央西部南側で1軒(SI06)、西部南側で1軒(SI04)で、直線上に並んでいる。帰属時期はいずれも9世紀後半～10世紀前半と考えられ、SI02・03・06が東カマド、SI04が南カマドとなっている。

墨書き土器はSI02から1点のみ出土した。灰釉陶器はSI02から1点、SI03から2点、遺構外から3点が出土した。いずれも破片資料で遺存状態は良くない。墨書き土器・灰釉陶器が多量に出土している上原III遺跡、中棚I遺跡とは様相が異なるようである。上原III遺跡や中棚I遺跡と比べて墨書き土器・灰釉陶器の出土量が少ないと、竪穴住居跡の規模が2.5m～4.5mと小さいものであることから、平安時代における本遺跡は拠点的な集落ではなく一般的な集落であったと考えられる。上原I遺跡IIとは竪穴住居跡の規模、墨書き土器・灰釉陶器の出土状況が類似していること、距離が近いことから、同一または近しい集落の可能性が考えられる。

また、朝林寺というお寺があったと伝わる場所であったが、発掘調査を行なった結果、遺構・遺物ともにお寺が存在していた痕跡は確認できなかった。

第35表 上原IV遺跡IV縄文住居跡諸属性一覧

遺構名	長軸方向	規模 (m × m)				主柱配置	剖		周溝	付帯施設	遺物			時期
		長軸	短軸	壁高	面積		位置	構築方法			土器	石器	その他	
SI05	N-82°-E	4.21	4.05	0.03	<13.05>	壁際	—	—	—	—	○	—	—	縄文時代後期

第36表 上原IV遺跡IV古代住居跡諸属性一覧

遺構名	長軸方向	規模 (m × m)				主柱配置	カマド		周溝	付帯施設	遺物			時期	
		長軸	短軸	壁高	面積		位置	構築方法			灰塙	墨書き	羽釜	鐵製品	铁滓
SI01	N-9°-E	3.50	(3.17)	0.10	(8.76)	1本	北壁	不明	—	—	—	—	—	—	古墳時代後期
SI02	N-85°-E	4.39	3.60	0.35	12.44	4本	東壁	石組・ 土で造成	—	—	○	○	—	—	9世紀後半
SI03	N-82°-E	4.16	3.42	0.27	11.61	2本	東壁	不明	—	—	○	—	○	—	9世紀後半～ 10世紀前半
SI04	N-14°-W	3.48	2.62	0.20	6.22	1本	南壁	石組・ 土で造成	—	権杖施設	—	—	○	—	9世紀後半～ 10世紀前半
SI06	N-89°-W	3.51	3.32	0.15	10.01	—	東壁	土で造成	—	—	—	—	—	—	9世紀後半か
SI07	N-13°-W	3.68	3.33	0.25	9.12	4本	北壁	石組・ 土で造成	—	苔蘚穴	—	—	—	—	古墳時代後期

参考文献

- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『幸神遺跡・上原IV遺跡／山根III遺跡(2)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2012 『榎木I遺跡／上原IV遺跡(2)／西久保IV遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第39集

第37表 上原IV遺跡V/出土遺物観察表

S105出土遺物観察表		細文時代土坑出土遺物観察表	
測定No.	測定箇所	法基(高さ/口径/底径)(cm)	特徴(形態・方法等)
230. 1	107 縄文・器・ 深鉢	(3.6) / - / -	口縁が内側を向く。腹文。外底は楕円。斜面十手。内底は楕円ナフ。
230. 2	107 縄文・器・ 深鉢	(2.3) / - / -	口縁が内側を向く。腹文。外底は楕円。斜面十手。
230. 3	- 縄文・器・ 深鉢	(5.6) / - / -	4・5・6. 一様の腹文に内底の底脚が突出する。外底は楕円ナフ。内底は楕円ナフ。
230. 4	- 縄文・器・ 深鉢	(5.6) / - / -	2・3の底脚がされ、腹文がナフでされるごとに上り下りがある。外底はナフ。
230. 5	107 縄文・器・ 口口	(2.6) / - / -	腹文。内底ともナフ。
230. 6	107 縄文・器・ 急出	(4.0) / - / -	浅鉢による文様が流れ、前頭LR. 突起文を有する。外底は楕円文は研磨。内底は楕円ナフ。

測定No.		測定箇所	法基(高さ/口径/底径)(cm)	特徴(形態・方法等)	測定No.	測定箇所	法基(高さ/口径/底径)(cm)	特徴(形態・方法等)	測定No.
235. 1	107 縄文・器・ 深鉢	(5.4) / - / -	底辺を引いて構成。底辺部足を内側からしてある。外底は楕円ナフ。内底は楕円ナフ。	良好	長石	107 縄文・器・ 深鉢	(5.4) / - / -	底辺を引いて構成。底辺部足を内側からしてある。外底は楕円ナフ。内底は楕円ナフ。	良好
235. 2	- 縄文・器・ 深鉢	(6.3) / - / -	3・4. 地心の腹文を有する。斜面十手。内底は楕円ナフ。	良好	砂利	107 縄文・器・ 深鉢	(6.3) / - / -	底辺を引いて構成。底辺部足を内側からしてある。外底は楕円ナフ。内底は楕円ナフ。	良好
235. 3	107 縄文・器・ 深鉢	(4.7) / - / -	外底は楕円ナフ。底脚が有るが、腹面から引いて底部分なり。内底は楕円ナフ。	良好	石英	107 縄文・器・ 深鉢	(6.3) / - / -	底辺を引いて構成。底辺部足を内側からしてある。外底は楕円ナフ。内底は楕円ナフ。	良好
235. 4	107 (砂利)	(10.3) / - / -	2・3. 異種骨片が内底に埋めこまれる。底脚が有るが、腹面から引いて底部分なり。内底は楕円ナフ。	良好	砂利	107 縄文・器・ 深鉢	(5.4) / - / -	底辺を引いて構成。底辺部足を内側からしてある。外底は楕円ナフ。内底は楕円ナフ。	良好
235. 5	107 縄文・器・ 深鉢	(13.8) / < 10.0 > / -	4. 異種骨片が内底に埋めこまれる。その上に複数の文字を有する。腹面から引いて底部分なり。内底は楕円ナフ。	良好	石英・片岩	107 縄文・器・ 深鉢	(13.8) / < 10.0 > / -	口縁部25%残存。	良好
235. 6	107 縄文・器・ 深鉢	(15.3) / - / -	5. 文。外底は斜面ナフ。内底は楕円ナフ。	良好	砂利	107 縄文・器・ 深鉢	(15.3) / - / -	底辺を引いて構成。底辺部足を内側からしてある。外底は楕円ナフ。	良好
235. 7	107 砂利・砂石	底 14.0 / 腹 14.1 / 底 6.1	6. 15%。腹面に上り下りがある。中底部が分離。その他の4点。腹面は斜面で平ら。	-	粗粒輝石質山河	107 縄文・器・ 深鉢	(15.3) / - / -	底辺を引いて構成。底辺部足を内側からしてある。外底は楕円ナフ。	良好
236. 8	107 縄文・器・ 深鉢	35.6 / 23.2 / 12.5	7. 15%。腹面に上り下りがある。中底部が分離。その他の4点。腹面は斜面で平ら。	良好	砂利	107 縄文・器・ 深鉢	(15.3) / - / -	口縁部~底部60%残存。	良好
236. 9	108 縄文・器・ 深鉢	(10.1) / - / -	8. 15%。腹面に上り下りがある。中底部が分離。その他の4点。腹面は斜面で平ら。	良好	金云母・石英	108 縄文・器・ 深鉢	(9.9) / - / < 2.0 >	9. 金云母多量・石英。	良好
236. 10	108 縄文・器・ 深鉢	(3.1) / - / -	10. 15%。腹面に上り下りがある。中底部が分離。その他の4点。腹面は斜面で平ら。	良好	砂利	108 縄文・器・ 深鉢	(3.1) / - / -	11. 金云母多量・石英。	良好
236. 11	108 縄文・器・ 急出		12. 15%。腹面に上り下りがある。中底部が分離。その他の4点。腹面は斜面で平ら。	良好	砂利	108 縄文・器・ 急出		13. 金云母多量・石英。	良好

1号遺物包含層出土遺物觀察表

測量番号	測量部位	形態	法規基準基準 (11番 基本) (cm)	特徴 (形態・手法等)	施上・材質等	色調(外側／内側)	備考	
240_1	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(6.3) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離し、1.上側と下側で文様が複雑に施された複数の文様等を施す。この中のどの文様がどちらの側とも施されたかは、現段階では不明である。他の文様等が複数ある。	良好	砂粒	網文/小網	赤茶20%灰白7%
240_2	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(5.6) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。	良好	砂粒	網文/小網	赤茶15%灰白7%
240_3	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(11.0) / 25.3 / -	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	砂粒	網文/小網	赤茶25%灰白7%
240_4	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(14.3) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	砂粒・竹青	網文	赤茶30%灰白7%
240_5	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(16.3) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	砂粒	網文/黒斑	赤茶50%灰白7%
240_6	108 [口口]	網文・器・ [口口]	(23.6) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	砂粒・斑點	網文/灰斑	赤茶25%灰白7%
240_7	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(34.4) / < 37.0 > / -	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	砂粒・角閃石	網文/灰斑	赤茶25%灰白7%
241_8	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(5.3) / < 38.0 > / -	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	砂粒	網文/灰斑	赤茶15%灰白7%
241_9	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	8.8 / < 13.4 > / 6.5	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	砂粒	網文/灰斑	赤茶40%灰白7%
241_10	-	網文・器・ [箇跡]	(3.3) /-/ < 12.0 >	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	石英	網文	赤茶
241_11	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(4.5) /-/ < 12.0 >	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	白色	網文/石英	赤茶25%灰白7%
241_12	-	網文・器・ [箇跡]	(0.9) /-/ < 8.0 >	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	白色	網文/石英	赤茶30%灰白7%
241_13	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(2.7) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	白色	網文/石英	赤茶30%灰白7%
241_14	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(5.1) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	角閃石	網文/石英	赤茶
241_15	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(3.9) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	角閃石	網文/石英	赤茶
241_16	108 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(3.2) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	角閃石	網文/石英	赤茶
241_17	109 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(6.0) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	角閃石	網文/石英	赤茶
241_18	109 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(6.0) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	角閃石	網文/石英	赤茶
241_19	109 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(4.8) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	角閃石	網文/石英	赤茶
241_20	-	網文・器・ [箇跡]	(3.5) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	角閃石	網文/石英	赤茶
241_21	109 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(6.3) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	角閃石	網文/石英	赤茶
241_22	109 [箇跡]	網文・器・ [箇跡]	(10.2) /-/ /-	器を作らる爲の文様等を分離する。内側と外側ともに複数の文様等を施す。表面は、斜面等の凹凸がある。	良好	角閃石	網文/石英	赤茶

241-23	109	獨立之器・ 深鉢	(3.3) /-/-	口内作動部が開閉する。有孔側面から、8字形筋を引く。前面下端に底筋あり。 口内前面に引出孔を有する。腮部にはくぼみや筋条を有する。	良好	肉質石	黒闇／暗	鏡付資料 (13枚目)	275 K D.18.2
241-24	109	獨立之器・ 深鉢	(3.7) /-/-	底部 1/3 までの深鉢。外縁部に引出筋がある。斜筋がありぐる。腮部 に側筋ナデ。	良好	砂利地質	暗	鏡付資料 (13枚目)	275 K D.18.2
241-25	109	獨立之器・ 深鉢	(4.5) /-/-	手対は、腮の両側面とも筋条を施す。腮の辺りは底筋である。内部底ともナデ。	良好	砂利地質	暗	鏡付資料 (肥千筋)	275 K D.18.2
241-26	109	獨立之器・ 深鉢	(6.9) /-/-	内側しならひ立ちより。口内底部分が2倍。腮部に側筋をつづ。腮部は側筋文と。内曲 筋で側筋文とされる。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。外縁部ともに横 筋有り。	良好	赤色粘土	暗／黒闇	鏡付資料 (13枚目)	275 K D.18.2
241-27	-	獨立之器・ 深鉢	(4.7) /-/-	腮部と側筋部に2/3。腮部が2倍。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。外縁部ともに横 筋有り。	良好	赤色粘土	黒闇／黒闇	鏡付資料 (13枚目)	275 K D.18.2
241-28	109	獨立之器・ 深鉢	(4.3) /-/-	腮部と側筋部に2/3。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。外縁部ともに横 筋有り。	良好	白色粘土	黒闇	鏡付資料 (13枚目)	275 K D.18.2
241-29	109	獨立之器・ 深鉢	(5.0) /-/-	腮部と側筋部を有する。腮部が2倍弱に見ええ。それから引きよろうに側筋が見 らる。腮部。腮部と側筋部もともに横筋ナデ。	良好	砂利地質	暗／こい小窓	鏡付資料 (13枚目)	275 K D.18.2
242-30	109	獨立之器・ 深鉢	(5.1) /-/-	口内作動部に引出筋がある。これに側筋文と引く。外縁部的な筋条を作れる。 腮部は側筋文とくびくび筋条である。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。外縁部を挟 む筋条である。口縁部に側筋文と引出筋がある。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。外縁部ともに ナデ。	良好	砂利地質	暗	鏡付資料 (13枚目)	275 K D.18.2
242-31	109	獨立之器・ 深鉢	(5.6) /-/-	腮部と側筋部を有する。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。外縁部ともに ナデ。	良好	砂利地質	暗	鏡付資料 (13枚目)	275 K D.18.2
242-32	109	獨立之器・ 深鉢	(3.9) /-/-	4枚。腮部の腮は側筋部を有する。外縁部ともに横筋ナデ。	良好	角閃石	黒闇／暗	鏡付資料 (13枚目)	275 K D.17.2
242-33	109	獨立之器・ 深鉢	(4.6) /-/-	内側、肥厚する。腮部は側筋文と引出筋文と添付し。横手筋の筋紋も見ら れ。腮部は側筋ナデ。	良好	粗じし層文は 引出筋上に側筋文と	明小窓	鏡付資料 (6枚)	275 K D.17.2
242-34	109	獨立之器・ 深鉢	(3.5) /-/-	細かな側筋文と。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。外縁部はナデ。腮部は側筋・ 筋ナデ。	良好	砂利地質	黒闇／暗	鏡付資料 (6枚)	275 K D.18.2
242-35	109	獨立之器・ 深鉢	(3.8) /-/-	横は3条なり。1/3 までが側筋部で側筋部になる。外縁部はナデ。腮部は側筋・ 筋ナデ。	良好	砂利地質	暗／こい小窓	鏡付資料 (13枚目)	275 K D.18.2
242-36	109	獨立之器・ 深鉢	(2.9) /-/-	8字形筋などと引出筋があるのに、腮部の側筋が側筋部になる。腮部に側筋文と引出筋文と半筋 前筋文と側筋文とする。腮部は側筋ナデ。	良好	砂利地質	暗／こい小窓	鏡付資料 (6枚)	275 K D.18.2
242-37	109	獨立之器・ 深鉢	(6.9) /-/-	腮部が2倍となり。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。 さざなぎ：1/3の筋筋が筋筋の2/3。3つ側筋文を有する。外縁部はナデ。腮部は側筋ナデ。	良好	砂利地質	暗／こい小窓	鏡付資料 (6枚)	275 K D.17.2
242-38	109	獨立之器・ 深鉢	(5.1) /-/-	くびけに引出筋。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。外縁部は側筋ナデ。	良好	砂利地質	暗／こい小窓	鏡付資料 (6枚)	275 K D.17.2
242-39	109	獨立之器・ 深鉢	(11.3) /-/-	口縁による筋筋文と。強筋文と筋筋。腮部は側筋文と。外縁部は側筋ナデ。	良好	砂利地質	暗／こい小窓	鏡付資料 (6枚)	275 K D.18.2
242-40	109	獨立之器・ 深鉢	(3.7) /-/-	筋筋側面による側筋文を有する。背面はナデ。腮部は側筋ナデ。	良好	砂利地質	暗	鏡付資料 (6枚)	275 K D.18.2
242-41	109	獨立之器・ 深鉢	(4.6) /-/-	8字形筋と引出筋の2つ有り側筋文を有する。外縫部はナデ。腮部は側筋ナデ。	良好	砂利地質	暗	鏡付資料 (6枚)	275 K D.18.2
242-42	109	獨立之器・ 深鉢	(3.8) /-/-	腮部と側筋部が2倍となり。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。外縫部は側筋文と。腮部は側筋文と。 ナデ。	良好	砂利地質	暗／黒闇	鏡付資料 (6枚)	275 K D.17.2
242-43	109	獨立之器・ 深鉢	(11.6) /-/-	1/3の筋筋が2倍となる。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。外縫部は 筋筋ナデ。腮部の筋筋文と。腮部は側筋文と。外縫部は側筋文と。	良好	砂利地質	暗／黒闇	鏡付資料 (6枚)	275 K D.18.2
242-44	109	獨立之器・ 深鉢	(7.8) /-/-	腮部による筋筋文と引出筋文と。腮部は側筋ナデ。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。 外縫部はナデ。	良好	砂利地質	暗／こい小窓	鏡付資料 (13枚目～全体)	D - F18.2
242-45	-	獨立之器・ 深鉢	(8.9) /-/-	腮部により強筋文と引出筋文と。腮部は側筋ナデ。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。 外縫部はナデ。	良好	砂利地質	暗小窓	鏡付資料 (6枚)	275 K H.18.2
242-46	-	獨立之器・ 深鉢	(5.1) /-/-	腮部による強筋文と引出筋文と。腮部は側筋ナデ。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。腮部は側筋文と。	良好	角閃石	水底／暗闇	鏡付資料 (6枚)	275 K D.18.2

242.47	109	與之・原・ 説	(4.3) /-/-/-	平行面による面。外端は楕位ナデ。内面はナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.G.17.1
242.48	109	與之・原・ 圓・-4號	(8.7) /-/-/-	平行面による面。外端は楕位ナデ。内面は楕位ナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
242.49	109	與之・原・ 圓4號	(5.8) /-/-/-	平行面による面。外端は楕位ナデ。内面は楕位ナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.E.17.2
242.50	-	注口山・ 原	(2.2) /-/-/-	細かな凹凸面。外端は無いり無理。光沢を持つ。内面はナデ。	良好	角閃石	弱小風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
242.51	109	與之・原・ 原かみ	(3.3) /-/-/-	くの字に外にする。3面の楕位を施す。外端は楕位研磨。内面はナデナデ。	良好	金出母	弱小風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
242.52	109	争生・土井か・ 原	(2.1) /-/-/-	角の脚部であるから、底端部が削れる。外端はナデ。内面はナデナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.53	109	争生・土井・原	(10.0) /<20.0>/-/-	17号先端部がある。底の山形が長い。表面の無理な切欠きがある。底端部は無理な切欠きがある。外端は無理な切欠きがある。内面はナデナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.54	109	國文上・原・ 林	(0.5) /-/-/-	体の右側は無理な切欠きがある。左側は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。内面はナデナデ。内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	角閃石(白色)	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.55	-	争生・土井・原	(0.6) /-/-/-	口が大きい。外端はナデナデ。内面はナデナデ。内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	金出母	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18
243.56	109	争生・土井・原	(5.7) /-/-/-	18号先端部がある。外端は楕位ナデ。内面は楕位ナデ。内面はナデナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.E.18
243.57	109	争生・土井・原	(3.2) /-/-/-	6号の楕位を施す。その下の部分に削り切られる。底端部は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	金出母／石英	弱小風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.58	109	争生・土井・原	(5.4) /-/-/-	楕位を施す。外端はナデナデ。内面はナデナデ。内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	角閃石・半色鉄	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.59	109	争生・土井・原	(0.3) /-/-/-	山形の先端部に削り切られる。外端はナデナデ。内面はナデナデ。内面は無理な切欠きがある。5号の楕位を施す。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.60	109	争生・土井・原	(5.9) /-/-/-	内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。内面はナデナデ。内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	石英	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.61	109	争生・土井・原	(3.8) /-/-/-	特に外端部に削り切られる。外端はナデナデ。内面はナデナデ。内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.F.18.2
243.62	109	争生・土井・原	(4.0) /-/-/-	特に外端部に削り切られる。外端はナデナデ。内面はナデナデ。内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.H.18.2
243.63	110	争生・土井・原	(4.0) /-/-/-	内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。内面はナデナデ。内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	金出母／石英	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.64	110	争生・土井・原	(4.8) /-/-/-	19号に削り切られた。内面はナデナデ。外端はナデナデ。内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	長石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.65	110	争生・土井・原	(4.5) /-/-/-	内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。内面はナデナデ。内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.66	110	争生・土井・原	(4.4) /-/-/-	内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。内面はナデナデ。内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.67	110	争生・土井・原	(1.1) /-/-/-	内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.E.18.2
243.68	110	争生・土井・原	(4.9) /-/-/-	内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.69	110	争生・土井・原	(0.0) /-/-/-	内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	角閃石	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.70	110	争生・土井・原	(4.4) /-/-/-	内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	石英	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
243.71	-	争生・土井・原	(2.8) /-/-/-	内面は無理な切欠きがある。外端はナデナデ。	良好	砂岩	弱小風／弱風	弱小風／弱風	2.75 K.D.18.2
244.72	110	利根石原・ 原	長.1.9 /幅.1.5 /厚.0.4	重頭1.0g。基盤。	-	チート	-	-	完結。
244.73	110	利根石原・ 原	長3.2 /幅1.5 /厚.0.4	重頭1.13g。内M。断面X型。	-	黑曜石	-	-	一部欠損。
244.74	110	利根石原・ 原	長14.0 /幅7.0 /厚.0.9	重34.0g。瘤形。	-	黑色安山岩	-	-	完結。

5101出土遺物觀察表

[07]出土遺物類表									
遺物番号	図版No.	器種	法則基盤(工作/底面)(cm)	法則基盤(工作/底面)(cm)	遺物番号	図版No.	器種	法則基盤(工作/底面)(cm)	法則基盤(工作/底面)(cm)
2248-1	111	土器底・盤	<25.5×-/19.1×8.0	/19.1×8.0	2248-1	111	土器底・盤	8.8×11.8×丸底	8.8×11.8×丸底
2248-2	111	土器底・盤	8.8×11.8×丸底	8.8×11.8×丸底	2248-3	—	土器底・盤	(2.3)×-/—	(2.3)×-/—
2251-1	111	土器底・盤	30.8×16.5×7.2	30.8×16.5×7.2	2251-1	111	土器底・盤	5.71×15.0×—	5.71×15.0×—
2251-2	111	土器底・盤	30.8×17.9×6.6	30.8×17.9×6.6	2251-3	111	土器底・盤	(2.3)×14.6×—	(2.3)×14.6×—
2251-4	111	土器底・盤	—	—	2251-5	112	土器底・盤	27.1×24.4×8.1	27.1×24.4×8.1
2251-6	111	土器底・盤	9.4×15.4×丸底	9.4×15.4×丸底	2251-7	111	土器底・盤	—	—

S02 出土遺物観察表									
測定No.	測定値	基準	法面(表面) / 工程 / 線材(m)	特徴 (形態・質等)	測定	物上・材質等	色調(外袖 / 内筒)	備考	
251- 7	111	上端部・片	7.1 / < 12.6 / 丸底	前面は外袖部分とし、外側には鋸刃状がある。体部外側は直線的に下がっており、内側は「十」字型の構造がある。表面は滑らかである。 背面は「十」字型の構造がある。表面は滑らかである。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	明るめ 「白」底～底原50%強化。	S07 壁上	
251- 8	112	上端部・片	6.3 / 12.3 / 丸底	前面は外袖部分とし、内側は「十」字型の構造である。体部外側は直線的に下がっており、内側は「十」字型の構造である。 背面は「十」字型の構造がある。表面は滑らかである。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原75%強化。	S07 壁上・壁上	
251- 9	112	上端部・片	5.8 / 12.8 / 丸底	前面は外袖部分とし、内側は「十」字型の構造である。体部外側は直線的に下がっており、内側は「十」字型の構造である。 背面は「十」字型の構造がある。表面は滑らかである。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原75%強化。	S07 壁上	
251-10	112	上端部・片	5.5 / 14.2 / 丸底	前面は外袖部分とし、内側は「十」字型の構造である。体部外側は直線的に下がっており、内側は「十」字型の構造である。 背面は「十」字型の構造がある。表面は滑らかである。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原75%強化。	S07 壁上	
251-11	112	上端部・片	(4.6) / < 14.8 / >/-	前面は外袖部分とし、内側は「十」字型の構造である。体部外側は直線的に下がっており、内側は「十」字型の構造である。 背面は「十」字型の構造である。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原75%強化。	S07 壁上	
251-12	112	上端部・丸底	(1.9) / < - / -	背面は「丸底」である。 前面は「丸底」である。 表面は滑らかである。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原 (丸底)	S07/P5	

S03 出土遺物観察表									
測定No.	測定値	基準	法面(表面) / 工程 / 線材(m)	特徴 (形態・質等)	測定	物上・材質等	色調(外袖 / 内筒)	備考	
256- 1	112	上端部・圓柱	(5.1) / < 1.80 > / -	突出した丸みを有する可能性もある。内外とも「十」字型の構造である。 表面は滑らかである。外側は「丸底」である。 内部は「十」字型である。 表面は滑らかである。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原 (丸底)	S02 壁上	
256- 2	112	上端部・側小	(7.3) / < - / 8.3	突出した丸みを有する。 内外とも「十」字型の構造である。 表面は滑らかである。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原 (丸底)	S02 壁上	
256- 3	-	上端部・小切頭	(2.0) / < - / < 7.0 >	小切頭のクロマ量と濃度が異なる。 外側は「丸底」となっている。 内部は「十」字型の構造である。 表面は滑らかである。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原 (丸底)	S02 壁上	
256- 4	112	上端部・片	(5.3) / < 11.4 > / 丸底	前面は外袖部分とし、内側は「十」字型の構造である。 前面は滑らかである。 背面は「十」字型の構造である。 表面は滑らかである。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原 (丸底)	S02 壁上	
256- 5	112	上端部・片	5.6 / 12.3 / 丸底	前面は外袖部分とし、内側は「十」字型の構造である。 前面は滑らかである。 背面は「十」字型の構造である。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原 (丸底)	S02 壁上	
256- 6	112	頂面・丸	(5.3) / < 11.4 > / -	ローラ棒等、外側とともに「クロロナ」。 表面は滑らかであるが、研磨された跡がある。 表面は滑らかである。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原 (丸底)	S02 壁上	
256- 7	112	上端部・裏	(8.1) / < - / -	前面は外袖部分とし、内側は「十」字型の構造である。 前面は滑らかである。 背面は「十」字型の構造である。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原 (丸底)	S02 壁上	
256- 8	-	灰黒物質・圓柱	(1.7) / < - / -	ローラ棒等、外側とともに「クロロナ」。 表面は滑らかである。 背面は「十」字型の構造である。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原 (丸底)	S02 壁上	
256- 9	112	石製品・圓石	長21.7 / 幅(12.1) / 厚17	盤面は滑らかである。 裏面は滑らかである。 裏面は滑らかである。 裏面は滑らかである。	直線 直線	砂岩・砂質・石英	「白」底～底原 (丸底)	S02 壁上	

258. 4	112	外側部・ 端部	(2.4) /< 13.6 >/~	ロコロボット。内部部分は木にクロロゲン。体外部分は白木ヘタケアリ。表面は皮目掛けで、色は黒に近いが、やさかな暗緑色に近づく。口輪は黒。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、木板2.5空心板。	S03.6.6付
258. 5	112	外側部・ 端部	(3.2) /< ~ 7.4	白木のロコロボット。内外ともに木にクロロゲンで、体外部分はヘタケアリ。表面は皮目掛けで、色は黒に近いが、やさかな暗緑色に近づく。口輪は黒。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、木板2.5空心板。	S03.6.6付
258. 6	—	上面部・ 小切端	(1.0) /< ~ /~	木のロコロボット。表面は皮目掛けで、色は黒に近いが、やさかな暗緑色に近づく。口輪は黒。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、木板2.5空心板。	S03.6.6付
258. 7	112	上面部・ 片	(1.2) /< ~ /~	木のロコロボット。表面は皮目掛けで、色は黒に近いが、やさかな暗緑色に近づく。口輪は黒。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、木板2.5空心板。	S03.6.6付
258. 8	112	上面部・ 端部	(2.9) /< ~ /~	ロコロボット。内部部分は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は皮目掛けで、色は黒に近いが、やさかな暗緑色に近づく。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、木板2.5空心板。	S03.6.6付
258. 9	112	上面部・ 端部	(5.6) /< ~ /~	ロコロボット。内部部分は木にクロロゲン。表面は皮目掛けで、色は黒に近いが、やさかな暗緑色に近づく。口輪は黒。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、木板2.5空心板。	S03.6.6付
258. 10	112	上面部・ 端部	(12.4) /< ~ /~	骨端部と木にナマケテナガ。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、木板2.5空心板。	S03.6.6付
S104 出土遺物観察表								
出土地名	遺物名	法面開拓高 (cm)	特質 (形態・大きさ)	特質 (形態・大きさ)	地質	断上・横質	調査 (外袖・内袖)	備考
263. 1	113	上面部・ 小切端	(5.4) /< 10.0 >/~	ロコロボット。内部部分は木にクロロゲン。表面は皮目掛けで、色は黒に近いが、やさかな暗緑色に近づく。口輪は黒。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、	S04.6.6付
263. 2	113	上面部・ 片	5.0 /< 3.6 >/< 6.0 >	木のロコロボット。表面は木にクロロゲン。表面の下には網状ミミズが付着している。表面は木にクロロゲン。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、	S04.6.6付
263. 3	113	上面部・ 片	3.8 /< 11.8 >/< 5.8 >	ロコロボット。内部部分は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、	S04.6.6付
263. 4	113	上面部・ 端部	(2.9) /< ~ 6.7	木のロコロボット。内部部分は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、	S04.6.6付
263. 5	113	上面部・ 小切端	(10.0) /< ~ 5.0	木のロコロボット。内部部分は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、	S04.6.6付
263. 6	113	上面部・ 端部	(4.3) /< ~ < 6.6 >	木のロコロボット。内部部分は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、	S04.6.6付
263. 7	113	上面部・ 端部	(15.7) /< 17.8 >/~	木のロコロボット。内部部分は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、	S04.6.6付
263. 8	—	上面部・ 半端部	(2.3) /< ~ 6.0	面元端のため調査不能だが、外側はヘタケアリ。表面はヒビナガとされる。底面はヘタケアリ。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、	S04.6.6付
263. 9	113	上面部・ 端部	(0.1) /< ~ /~	ロコロボット。内外ともに木にクロロゲン。口輪は木にクロロゲン。口輪は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。	面元端・ 白色	灰黄	【山形】～本巣上位 2019.6.6付、	S04.6.6付
263. 10	113	石端部・ 端部	長7.0 /幅2.5 /厚2.4	木のロコロボット。内部部分は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。表面は木にクロロゲン。	面元端・ 白色	灰黄	—	完形。

S06 出土遺物観察表						
番号No.	形態	表面	法面	裏面	特徴 (形態・手法)	備考
263.11	113 石器・砾石	長11.8／幅4.8／厚0.9 厚さ11.8-3.6・半径ちぎれ 形状不定。中央部が抉れることがあり。削	-	直角	削上・斜面等 砂面・白面・研磨面	S04 研磨
266. 1	113 上部崩・整か	(4.4) /~/-	黒、もしもは墨と見られる。内面ともナナ。	-	直角	S06 黒墨
266. 2	113 上部崩・整か	(3.2) /~/-	黒、もしもは墨と見られる。外縁はカサグ、内縁はヘタガタで、削はヘタガタで、削はカサグ。	やや丸み	直角	S06 カサグ

その他時代 自然溶出土遺物観察表

番号No.	形態	表面	法面	裏面	特徴 (形態・手法)	備考
275. 1	113 圓文・崩・削	法面深さ6.135・幅3.85mm /<21.0>	体表面が丸らしく、削は横に削痕を残す。表面は研磨面	直角	削上・斜面等 砂面・白面	色調外縁・白縁
275. 2	113 圓文・崩・削	(6.8) /~/-	手の握り部分は、直角の削痕が複数ついており、全体的に削痕となる。削は研	直角	削上・斜面等 砂面・白面	金合母大頭
275. 3	113 圓文・崩・削	(7.2) /~/-	手の握り部分は、直角の削痕が複数ついており、全体的に削痕となる。削は研	直角	削上・斜面等 砂面・白面	研磨・斜面
275. 4	113 圓文・崩・削	(4.5) /~/-	手の握り部分は、直角の削痕が複数ついており、全体的に削痕となる。削は研	直角	削上・斜面等 砂面・白面	研磨・斜面
275. 5	113 圓文・崩・削	(4.7) /~/-	手の握り部分は、直角の削痕が複数ついており、全体的に削痕となる。削は研	直角	削上・斜面等 砂面・白面	研磨・斜面
275. 6	~	(2.6) /~/-	手の握り部分は、直角の削痕が複数ついており、全体的に削痕となる。削は研	直角	削上・斜面等 砂面・白面	研磨・斜面
275. 7	113 圓文・崩・削	(5.5) /~/-	手の握り部分は、直角の削痕が複数ついており、全体的に削痕となる。削は研	直角	削上・斜面等 砂面・白面	研磨・斜面
275. 8	113 圓文・崩・削	(4.2) /~/-	手の握り部分は、直角の削痕が複数ついており、全体的に削痕となる。削は研	直角	削上・斜面等 砂面・白面	研磨・斜面
275. 9	113 圓文・崩・削	(4.1) /~/-	手の握り部分は、直角の削痕が複数ついており、全体的に削痕となる。削は研	直角	削上・斜面等 砂面・白面	研磨・斜面
275.10	113 圓文・崩・削	(5.7) /~/-	手の握り部分は、直角の削痕が複数ついており、全体的に削痕となる。削は研	直角	削上・斜面等 砂面・白面	研磨・斜面
275.11	113 刃竹形状・長 (2.9) /幅 (1.5) /厚0.6 削留 (1.3) 長・凹面・圓錐状尖端	-	-	直角	直角	-
275.12	~ 圓文・崩・削	(3.7) /~/-	キリバハ型の刃留形、3つの槽が大きめ、削は研磨面を残す。外縁は研磨面ナナ。	直角	直角	研磨・斜面
275.13	113 圓文・崩・削	(4.6) /~/-	キリバハ型の刃留形、3つの槽が大きめ、削は研磨面を残す。外縁は研磨面ナナ。	直角	直角	研磨・斜面
275.14	113 圓文・崩・削	(3.5) /~/-	刃留が複数ある。内縁に削痕がある。口縁は研磨面が複数ある。その上に内	直角	直角	研磨・斜面
275.15	113 圓文・崩・削	(5.9) /~/-	刃留が複数ある。内縁に削痕がある。口縁は研磨面が複数ある。外縁は研磨面ナナ。	直角	直角	研磨・斜面
275.16	114 圓文・崩・削	(4.9) /~/-	刃留が複数ある。内縁に削痕がある。口縁は研磨面が複数ある。外縁は研磨面ナナ。	直角	直角	研磨・斜面

275.17	114	周文・原・ 詩篇	(4.8) /-/-/-	内蔵する。長い文化による連續的な文構造を示す。明暗LR翼交換。内外部ともにナデ。	良好	白色紙	細網／黒網	織り目質料 (1種類)		S002					
275.18	114	周文・原・ 詩篇	(2.9) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	砂粒・角閃石	織り目質料 (1種類)		S002						
275.19	114	周文・原・ 詩篇	(2.6) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	砂粒・角閃石	織り目質料 (1種類)		S002						
276.20	114	周文・原・ 詩篇	(3.1) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	白色紙	織り目質料 (1種類)		S002						
276.21	114	周文・原・ 詩篇	(3.8) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	砂粒	織り目質料 (1種類)		S002						
276.22	114	周文・原・ 詩篇	(3.9) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	白色紙	織り目質料 (1種類)		S002						
276.23	114	周文・原・ 詩篇	(4.6) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	金芸母	織り目質料 (4種類)		S002						
276.24	114	周文・原・ 詩篇	(4.8) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	角閃石	織り目質料 (4種類)		S002						
276.25	114	周文・原・ 詩篇	(5.5) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	石英・角閃石	織り目質料 (1種類)		S002						
276.26	114	周文・原・ 詩篇	(6.5) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	大斜方岩	織り目質料 (4種類)		S002						
276.27	114	周文・原・ 詩篇	(6.1) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	白色紙	織り目質料 (4種類)		S002						
276.28	114	周文・原・ 詩篇	(5.1) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	金芸母	織り目質料 (4種類)		S002						
276.29	114	周文・原・ 詩篇	(5.0) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	砂粒	織り目質料 (4種類)		S002						
276.30	114	周文・原・ 詩篇	(6.8) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	金芸母	織り目質料 (4種類)		S002						
276.31	114	周文・原・ 詩篇	(2.5) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	角閃石	織り目質料 (4種類)		S002						
276.32	114	周文・原・ 詩篇	(4.6) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	砂粒	織り目質料 (4種類)		S002						
276.33	-	周文・原・ 詩篇	(3.5) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	砂粒	織り目質料 (4種類)		S002						
276.34	114	周文・原・ 詩篇	(4.5) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	砂粒	織り目質料 (4種類)		S002						
276.35	114	周文・原・ 詩篇	(4.3) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	角閃石	織り目質料 (4種類)		S002						
276.36	114	周文・原・ 詩篇	(2.2) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	白色紙	織り目質料 (4種類)		S002						
276.37	114	周文・原・ 詩篇	(4.9) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	砂粒	織り目質料 (4種類)		S002						
276.38	114	学生・原・ 詩篇	(4.7) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	砂粒・柱状	織り目質料 (1種類)		S002						
276.39	114	学生・原・ 詩篇	(3.7) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	角閃石	織り目質料 (4種類)		S002						
276.40	-	新約聖書・ 詩篇	(1.5) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	黑曜石	—	—	S002						
276.41	114	行管石鑑・ 詩篇	(1.12) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	黑色玄武岩	—	75% 積存	S002						
276.42	114	行管石鑑・ 詩篇	(9.1) /-/-/-	長い文化による長い間の内蔵。長い文化による長い間の内蔵。内外部ともにナデ。	良好	黑色玄武岩	—	65% 積存	S002						

276.43	—	打製石器・ 打製石器・ 打製石器・	長 (7.3) / 幅 5.3 / 厚 1.7	素面 (60.2) 向・先端部磨り・刃端部磨り・刃端部磨り・	—	黒色砂岩	—	—	50% 破片	—	S002	
276.44	—	磨光磨擦・ 凹凸・磨石	長 12.7 / 幅 11.8 / 厚 6.6	斜面に削りこまれた状態のものほどある。表面は研ぎ削られた形状であり、まぶらな状が ある。	—	粗粒輝石安山岩	—	—	完全	—	S002	
279.45	114	獨立・ 獨立・ 獨立・	(9.6) / - / -	點状を伴う微細な凹下する深溝間に平行で斜め下に走る。とが枝状の溝である。表面はナガ。	良好	金田貝多型・石斧	地	織り目質 (休面)	—	—	S003	
279.46	114	獨立・ 獨立・	(4.3) / - / -	表面は斜面の形になり、円柱の突起部から、円柱部に凹入がある。突出部は最も削られた形であり、表面はナガ。	良好	砂岩質	地	織り目質 (休面)	—	—	S003	
279.47	114	獨立・ 獨立・	< 23.9 > / 15.6 / < 7.0	斜面は深く削られた形である。表面は斜面で、円柱部は削れ、円柱部は凹入、キヤリバー の形で斜面を削られた形である。外見はナガ。	良好	砂岩質	地	織り目質 (休面)	—	—	S004	
279.48	114	獨立・ 獨立・	(10.1) / - / -	表面は斜面で、円柱部は削られた形である。外見はナガ。	良好	自然板・赤目岩	地	織り目質 (休面)	—	—	S004	
279.49	114	獨立・ 獨立・	(3.9) / - / -	斜面は深く削られた形である。外見はナガ。	良好	砂岩質	地	織り目質 (休面)	—	—	S004	
279.50	114	獨立・ 獨立・	(0.8) / - / -	内側の底面を削られた形である。内側はナガともナガ。	良好	角閃石	地	織り目質 (休面)	—	—	S004	
279.51	114	獨立・ 獨立・	(0.3) / - / -	内側の底面を削られた形である。内側はナガともナガ。	良好	砂岩質	地	織り目質 (休面)	—	—	S005	
279.52	114	獨立・ 獨立・	(0.1) / - / -	有孔部が半楕円形である。外側は斜面で、斜面は 楕円ナメ、内面は楕・斜面。	良好	砂岩質	地	織り目質 (休面)	—	—	S005	
279.53	114	独立・ 独立・	(5.6) / - / -	有孔部が半楕円形である。外側は斜面で、斜面は 楕円ナメ、内面は楕・斜面。	良好	砂岩質	地	織り目質 (休面)	—	—	S005	
279.54	114	獨立・ 獨立・	(5.0) / - / -	有孔部が半楕円形である。外側は斜面で、斜面は 楕円ナメ、内面は楕・斜面。	良好	砂岩質	地	織り目質 (休面)	—	—	S005	
279.55	114	獨立・ 獨立・	(5.1) / - / -	有孔部が半楕円形である。外側は斜面で、斜面は 楕円ナメ、内面は楕・斜面。	良好	砂岩質	地	織り目質 (休面)	—	—	S005	
279.56	114	獨立・ 獨立・	(0.0) / - / -	有孔部が半楕円形である。外側は斜面で、斜面は 楕円ナメ、内面は楕・斜面。	良好	砂岩質	地	織り目質 (休面)	—	—	S005	
279.57	—	獨立・ 獨立・	(5.0) / - / -	手形。裏の把手である。裏、外側はナガ。内側はナガ。	良好	白色砂	地	織り目質 (休面)	—	—	S005	
279.58	114	独立・ 独立・	(2.9) / - / -	底面による底面が切られる。外見はナガ。	良好	赤色砂	地	織り目質 (休面)	—	—	S005	
遺構出土遺物観察表												
構造No.												
282. 1	115	獨立・ 獨立・	(4.4) / - / 5.4	無之、外側は底面が削れ、内側は斜面が削れ。斜面は底面より、底面より底面より削れたり。	良好	角閃石	地	断上・斜面質	色調(外底) / 色調(底)	織り	2-75区N-17	
282. 2	115	獨立・ 獨立・	(4.2) / - / -	斜面は削れし、さやけり一貫となる。斜面削れは、平行斜面削れ、斜面削れを複数する。その 上には複数の斜面削れをする。	良好	角閃石	地	斜面	織り目質 (休面)	織	3-13湖西	
282. 3	—	獨立・ 獨立・	(4.7) / - / -	上には複数の斜面削れをする。	良好	角閃石	地	斜面	織り目質 (休面)	織	28-レ-1-2	
282. 4	115	獨立・ 獨立・	(3.9) / - / -	斜面は削れし、底面が削れをする。斜面削れは、斜面削れを複数する。斜面 削れは、斜面削れを複数する。斜面削れは、斜面削れを複数する。	良好	角閃石	地	斜面	織り目質 (休面)	織	38-3-2	
282. 5	115	獨立・ 獨立・	(5.2) / - / -	斜面は削れし、底面が削れをする。斜面削れは、斜面削れを複数する。斜面削れは、斜面削 れを複数する。斜面削れは、斜面削れを複数する。	良好	角閃石	地	斜面	織り目質 (休面)	織	38-3-2-1	

